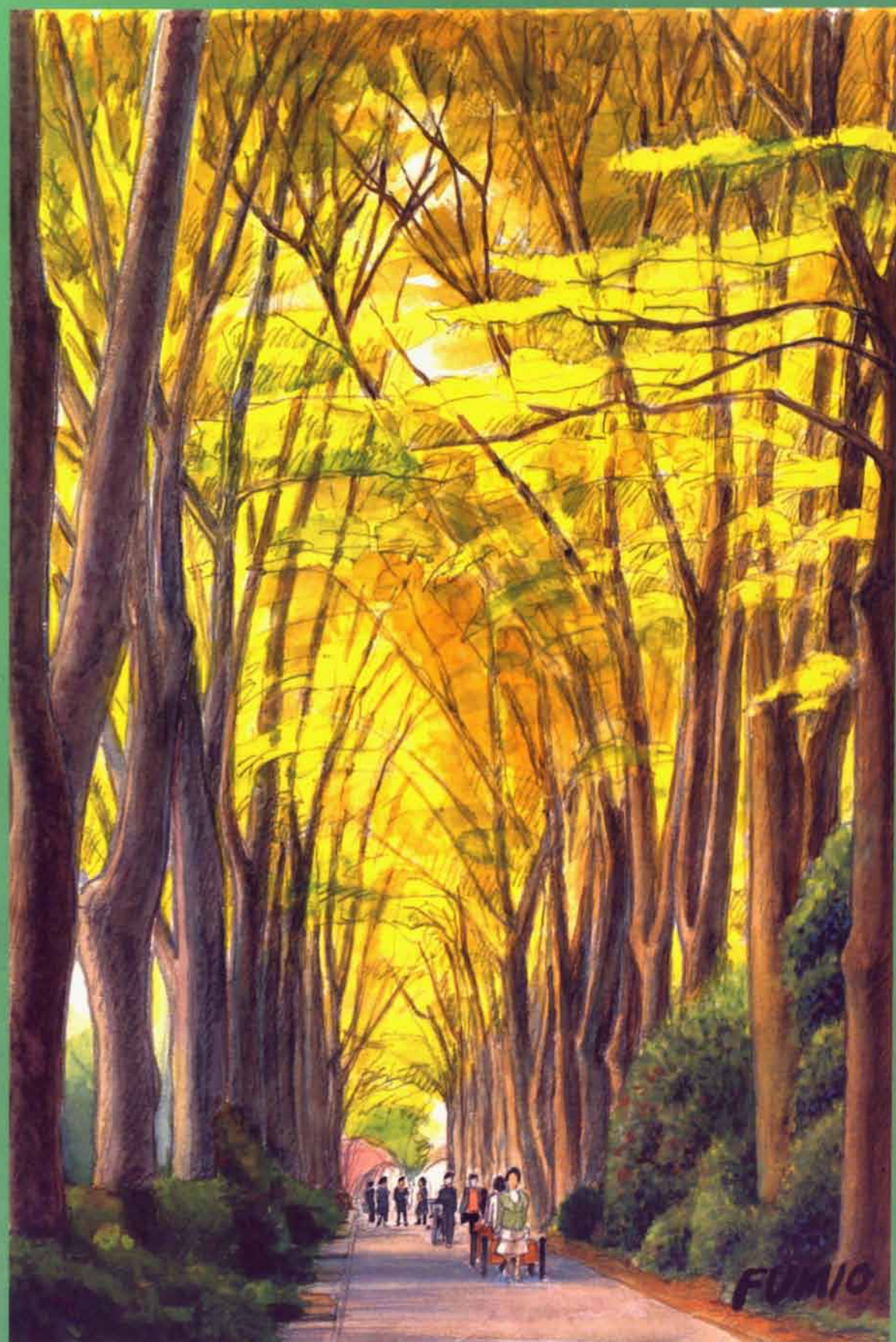


成溪會誌

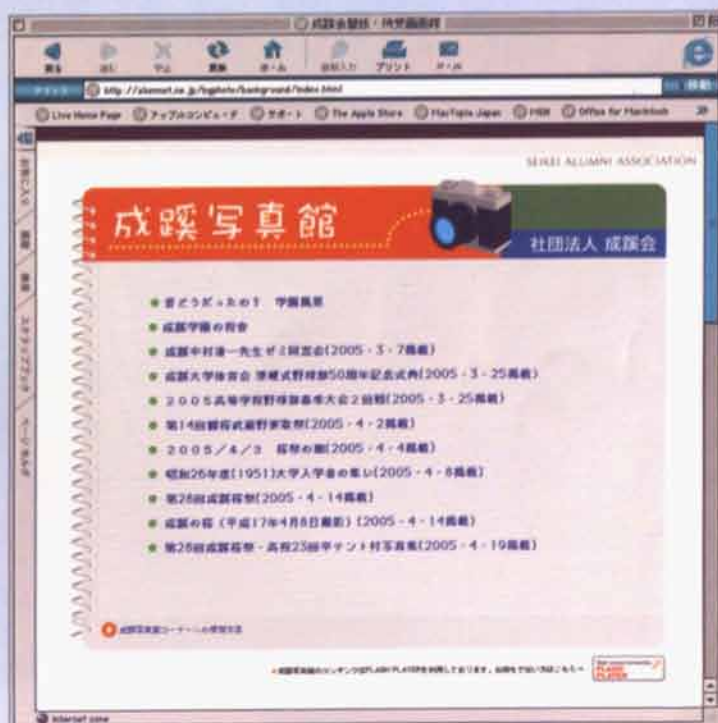


2005.7 No.101

ホームページのご案内!

リニューアル

成蹊会ホームページ <http://alumnet.ne.jp/>



同窓会活動の活性化と会員サービスの充実への取り組み

瀧 秀彦／2

新同窓会長就任挨拶

工学部同窓会会長

斎藤 光行／3

就任挨拶

文学部長に就任して

中里 明彦／4

特別寄稿

「法化社会」の到来 新しい司法が日本を変える
外から見た日本

本林 徹／5
守田 道夫／8

随想

成蹊の真の教育の桜が咲いた

APACHE／12

表紙絵の言葉／7 成蹊ラビリントス／11 故郷岡島久蔵氏のお別れの会／14

成蹊大学学位授与式における祝辞／15 アンケート結果報告／17

第26回成蹊校祭／18 予告／37 第14回観桜武蔵野寮歌祭／38

第2回成蹊校祭／39 新聞コラム／40 成蹊会学術教育助成事業研究助成報告の要旨／46

スポーツ振興助成金贈呈報告／50

成蹊会個人情報保護方針／54

成蹊会事業報告／57 成蹊会事務局からのお知らせ／58

表紙の題字は故上條信山先生、絵は吉田章夫（高・31年）

物故会員／51

退職挨拶／52 成蹊会報告／56

地域同窓会連絡先一覧／59

同窓のつとめ

学校・年次会のつとめ／21

小学校卒業40周年
はちの子会

清忠先生のご忌年をお祝いする会
横手長治先生の喜寿のお祝い会

工学部同窓会総会
第12回清和会総会

成蹊カウラ会
大学卒業30周年（昭和50年卒業）
船越学級クラス会

昭和26年大学入学者の集い

体育会・文化会・OB会 趣味のつとめ／25

工学部バスケットボール部
40周年記念大会
第七回SGCゴルフ大会

50年振り開催ESS OB大会
写像会秋季撮影会
準硬式野球部

創部50周年記念式典・祝賀会
混声合唱団OB会

清和会山歩き愛好会（別称Ⅱ山酔会）
彩蹊会

成蹊ラグークラブ歓送・祝勝会
写像会 撮影会

宇野ゼミ同窓会

混声合唱団OBによる合唱の集い
大学茶道部OB稽古

業界・企業のつとめ／32

日立プラント成蹊会
東京三菱銀行成蹊会

地域のつとめ／33

オーストラリアクイーンズランド成蹊会
北海道支部「枯林忌の集い」
宮城成蹊会

千葉支部の親睦イベント
渋谷成蹊会
岐阜成蹊会

2005年春の兵庫成蹊会
愛媛成蹊会（忘年会）
長崎成蹊会

同窓会活動の活性化と会員サービスの充実への取り組み

成蹊会会長 瀧 秀彦

■校祭は学園全体の大イベント

本年四月三日開催の第二十八回成蹊校祭は、多くの卒業生をはじめ、現役生、ご父母、教職員の参加がありました。単なる来校にとどまらず、学生会館、大学図書館別館、大学北一号館の部屋の殆どが学校、クラス、ゼミ、クラブ、職域などの同窓会で利用され、模擬店参加数も増加しています。準備運営、片付にも大勢の現役学生の積極的な協力を得ることで、同窓会の活動への理解にも繋がっております。先達のご苦勞を重ねて催されてきた校祭は、母校にしっかりと根をおろした催しとして、真の意味で同窓会活動のひとつ



の姿を示していると思います。

■年次委員の充実で横軸も強化

現在成蹊会会員七万五千名の約八割以上が大学四学部卒の卒業生で占められている現状では、学部同窓会組織を強化するとともに、合同年次会による横軸の繋がりが併せて強化することが必要で、この四学部同窓会の活性化が成蹊会の活性化のキーマンとなると認識しております。そのため、まずは卒業年ごとの年次委員の充実を図ることを目標に、一昨年より大学四学部の協力を得て、在学中に学部ごとに年次委員のご推薦をお願いしております。選任された新卒年次委員には、学部合同の年次会（二〇〇五年卒会）を組織して、今後卒業十年毎の記念同窓会の企画・運営に当たってもらうこととしております。

特に卒業十周年につきましては、ホームカミングとして、学園より、学園開催や財政面での支援を含めたご協力の申し出をいただいております。より多くの卒業生に母校に参集いただくことが、

その後の二十年、三十年と続く同窓の絆を深める契機になるものと考えております。なお、高等学校同窓会の卒業年次ごとの年次委員も、在学中にご推薦をお願いして組織化を図っていただいております。

■「会員サービス」と広報活動の充実

成蹊会では、各種同窓の会を計画されている団体や幹事を様々に支援する活動を通して、同窓会活動を活発化していくことが会員サービスの一環であると考えております。今後この会員サービスの充実を図るため、基本となる会員情報の把握と正確性の維持、その保護に努めることはもちろん、各支部・職域・クラブOB会との連携を強化し、成蹊クラブ（東京有楽町にニュートーキョービル内）の利便性を高め、また母校施設利用のサポート等、同窓会開催を支援する様々な活動の質的、量的充実を図り、さらに成蹊同窓生としてのアイデンティティを高めるため、在校生、父母までも含めたより広い広報活動を行なっていくことが、卒業生にとって成蹊会がより意義のある身近な存在となることができると考え、一層の努力をしてまいりたいと存じております。

■個人情報の安全管理の徹底

この四月から個人情報保護法が全面施行され、成蹊会も法律上の個人情報取扱事業者として会員情報の取扱いにつき、様々な義務が課せられております。成蹊会では、卒業後さまざまな場面面で同窓の絆を深くしていただき、併せて母校成蹊学園の発展と・在校生後輩へ支援を行うためにも、会員情報の正確性を確保し、安全管理措置を適切に行うことは、成蹊会の活動にとりましても生命線でございます。成蹊会では個人情報保護方針を定めて会員情報の管理を徹底し、信頼を得て会員情報を同窓会活動に活かすことができるよう体制を整えており、会員の皆様のご理解をいただきたいと思います。

■学園の創立百周年募金活動への協力

毎回重ねてのお願いとなりますが、成蹊学園創立百周年記念事業が進行しております。本年四月から小学校で二十八人学級制が実施され、さらには大学情報図書館が来年秋の利用開始を目指して既に着工いたしております。成蹊会をあげて募金事業に協力いたしておりますが、母校の更なる発展を支援するため、皆様には是非ご協力をいただきたく、お願いいたします。

（政経・35年）

工学部同窓会会長

斎藤 光行



今年4月より工学部同窓会の会長を引受けることになりました昭和44年工学部工業化学科卒の斎藤です。約8年ほど前からではないかと思いますが、岡田前会長、佐治前会長のもと副会長を務めてきました。16年間、お世話になりました成蹊に対する思いからお引受けしましたが、何分、力不足でありますので、皆様方のご指導、ご協力を頂きながら努力する所存です。

2005年度は、我々の工学部

新同窓会長就任挨拶

も、これからの技術的進化の激しい新しい時代に適合できる優れた人材を輩出すべく、新たに理工学部改編され、我々も今後の理工学部の発展に期待しているところですが、先日記念式典に出席させて頂き、先輩工学部としても工学部同窓会を一層活性化、充実化させなくてはならないと気持ちを新たにしたいところです。

これまでの工学部同窓会の会長、役員の皆様方が色々ご苦労されてきましたが、これからも引続き、約1万人弱の卒業生を擁する工学部同窓会の学科、年次単位の組織化を図るとともに、若い世代の方々にも参加頂き、幅広い世代の皆様方の同窓会にできたらと願うところです。

また、工学部の同窓会としてしっかりと足元を固めるとともに、トータルな成蹊会としての発展にも貢献できればと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

(工・44年)

旧制成蹊高等学校創立80周年記念誌の刊行

旧制高等学校創立80周年記念誌実行委員会

去る平成17年5月15日(日)に旧制高等学校創立80周年記念祝賀同窓会が大学10号館12Fホールで盛大に開催されました。この祝賀同窓会では一昨年来同窓会会員を動員して編纂に取り組んで参りました記念誌「吾等讀えんその名成蹊」を出席者の皆様方にお渡しすることが出来ました。

この記念誌の内容は成蹊高等学校(七年制)が大正14年(1925)に創立され、戦後の学制改革により廃止が決定し、昭和25年(1950)3月、最後の卒業生を送り出してその歴史の幕を降ろすまでの26年という短い期間のスクールライフを、戦前の4回卒(昭和6年)から戦前、戦後の激しい時代変化の中で個性豊かに過ごした88名の方々に執筆していただき編集したものです。回想記録に留まらず広く学園の教育史の中で貴重な資料になることでしょう。是非ご講読下さるようお勧め致します。

記

販売価格 ￥3,000 送料別(￥500円)／冊

購入申込 成蹊会 〒180-8638 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766

その他 ①グループでまとめてご購入いただける場合は送料が安くなります。細部は成蹊会事務局にお問い合わせください。

②「記念誌」はニュートーキョービル内の「成蹊クラブ」にも在庫を置いております。お立ち寄りいただければその場でお渡しできます。(電話・FAX 03-3571-7572)

以上

文学部長に就任して

中里明彦

本年4月より文学部長をつとめております。もとより浅学非才の身ではあります。ご指導とご鞭撻を賜りますようお願いします。

卒業生の皆様にはいろいろな機会を通じてご案内してまいりましたが、5年前に文学部は大幅な改組を実施し、長い伝統を誇る文化学科を二分する。たちで歴史・地域研究、文化人類学、国際関係研究を柱とする国際文化学科と、社会学とマス・コミュニケーション研究を軸とする現代社会学科の2学科を新設いたしました。幸いなことに



新2学科だけでなく英米文学科・日本文学科も含めて受験世代の関心は高いものがあります。昨年は改組後最初の卒業生を社会に送り出しましたが、これを機にカリキュラムの全面的見直しを行いました。また、通年科目主体の従来のカリキュラムを廃し、1学期(半年)ごとに単位を認定するセメスター制を導入しました。

新カリ2年目の今年は、2年次生以上が履修する各学科の専門科目が本格的にスタートしましたが、セメスター制になって授業のテーマのバラエティもより豊かさを増し、「越境する文学」「翻訳・通訳セミナー」「日本語を正しく話す」「日本語・日本文学のためのコンピュータ」「開発の人類学」「実践国際コミュニケーション」「人と仕事の社会学」「グローバルゼーションとメディア」といった魅力的なタイトルの科目が時間割表に並ぶようになりました。何十年も前に「○○学概論」「△△学特論」などという味も素っ気もない名称で、教室に行ってみないと

何をやるのかわからない授業—それなりにスリルと想像の楽しみはありましたが—を受けた世代としては隔世の感があります。ただし各学科とも、それぞれの学問分野の基幹となる知識や方法論を身につけるための科目群が中軸に配置されていることはいまでもありません。

4学科からなる文学部の幅の広さは聴講生にも人気があります。本学の授業は「武蔵野地域自由大学」の名のもとで地域の市民にも公開されていますが、文学部の授業は延べ330人以上の市民が聴講しています。歳をとっても勉学への意欲を持ち続ける聴講生の姿は、若い学生たちにも大きな刺激を与えてくれているようです。現在のカリキュラムを詳しくご紹介できないのは残念ですが、大学のホームページで公開されている「シラバス」(講義内容紹介)などでぜひご覧ください。

1965年に生まれた文学部はこの春満40歳になりました。卒業生のご子女を新人生に迎える例もかなり増えています。今後それぞれの学問領域の進化と、新時代の学生・社会のニーズとの間で揺れながら、よりよい文学部教育のあり方を追い求めてまいります。「四十而不惑」というわけにはいきま

せんが、皆様の暖かいご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

なお、文学部開設40周年にあたり、今年の櫛祭中の11月20日(日)には文学部同窓会との共催で記念行事を計画しています。卒業生の皆様にはぜひ母校にお出かけくださって変貌著しいキャンパスをご覧ください。お待ちしております。

略歴

1944年生まれ	
1969年	東京大学大学院社会学研究科国際関係論専門課程修了 テキサス大学大学院に留学
1971年	東京大学教養学部助手
1978年	成蹊大学文学部助教授
1984年	成蹊大学文学部教授
1992年	成蹊大学学生部長
1996年	成蹊大学国際交流センター所長
1999年	成蹊大学情報処理センター所長
2005年	成蹊大学文学部長
専攻	アメリカ史

「法化社会」の到来 新しい司法が日本を変える

もと ばやし とおる
本 林 徹

平成16年11月開学でし
成蹊大学に五
成蹊大学講義
に成蹊大学合
20日に成蹊
催された会
部同窓会内
の講演内容
を抄録し
ます。

二十一世紀に入り、日本の司法が今、大きく変わろうとしています。裁判員制度の新設、法科大学院設置、法律支援のネットワーク構築など、「改革」の動きが連日のように新聞紙上で報じられていることは、既にご存じのことと思います。

司法改革はなぜ必要か

これまで司法といえば、国民にとつては遠い存在のように思われていました。その司法を身近なものとして利用しやすくし、同時に国民にも積極的に



司法を担ってもらう。そういう発想の

転換が改革の底流にあるのですが、なぜ司法の改革が必要なのか、まず改革の動きを振り返ってみることにします。

時代は一九九〇年ごろにさかのぼります。日本が九〇年代から長い停滞に入ったことと相まって、十年後に迫った二十一世紀の日本の社会をいかにつくり上げていくべきか、さまざまな分野で検討が始まりました。ソ連の崩壊により冷戦構造が終わりを告げ、今後世界はどのように変化していくのか。それに伴い、政治・行政の分野では、どういうあり方を模索していったらいいのか。バブル後の経済のかじ取りはどうしたらいいのか。

戦後、長いこと言われ続けてきた政・官・財のトライアングルという、これまでの国の運営の仕組みを再検討、再構築していかなければならないことが余儀なくされたのです。政府は、まず政治改革から始めて、行政改革、そして規制緩和の下に経済の構造改革ということで、今、歩を進めているこ

とはご承知のとおりです。

司法の分野も例外ではありませんでした。例えば経団連からは国際取引とか、特許、著作権といった、いわゆる知的財産権を法律専門家として担える弁護士数が非常に少ない。もつと数を増やして専門家を育てる必要があるという不満も出されました。

また、外国の政府、企業、弁護士会等からは日本の行政の不透明さを指摘された上、日本の弁護士の数は非常に少ない、これは一種の規制ではないか。アメリカのようにもつと人数を増やすべきだ。外国の弁護士も日本でもつと活躍できるように、法的なサービスの自由化を推進すべきだという要望が次々と出されてきました。

ご承知のように、日本には弁護士法というのがあり、その第一条に、「国民の基本的人権の擁護と社会正義の実現」、これを弁護士の使命とすると明記されております。そういう使命を受けて日本の弁護士は、数は非常に少なかつたけれども、少ないなりに社会的な弱者あるいは少数者の人権擁護の活動には、大変すばらしい実績を残してきました。それは誇れると思います。しかし、弁護士にはどうしても少数のエリート意識というものが抜け切れ

なくて、国民にとっては近づきにくい存在だという指摘も一方であつたわけです。弁護士の数を大幅に増やして競争していくということとか、利用者の立場である国民や企業の立場に立つて、親切に法的サービスを提供していくというような姿勢に、やはり欠けている部分があつたことは事実だと思います。日本の司法制度、法律家のあり方に対する国民の世論、経済界の要望、あるいは外国からの要請を受け、司法の分野についても二十一世紀の日本にあつたように、国民のための、国際的にも通用する司法制度をつくる必要があるという意見が、次第に強まっていきました。

司法制度改革審議会の立ち上げ

一九九七年、橋本龍太郎内閣のときに、「司法制度改革」が政治課題にのぼり、二年後の一九九九年に、内閣の下に司法制度改革の審議会が立ち上げられました。この審議会は、二年間にわたって、五十数回に及ぶ会議となり、真剣な論議を戦わせました。

しかも、この議論がすべてインターネットで公開され、いわばガラス張りである国民的な議論をしたということは画期的な出来事といつていいでしょう。そして二〇〇一年六月に、「二十一世

紀の日本を支える司法制度」という題の最終意見書が総理大臣に提出されました。骨格は、非常に高い理念に基づいてつくられていると言えます。

従来、司法の改革、改善というと、どうしても司法サービスを提供する側の、法律家の立場でものを見て制度改革が行われてきたのですが、今回は主権者であつてしかも法律のサービスを受ける、いわばユーザーである国民の立場に立つて改革をしていくということが、はつきり打ち出され、三つの明確なメッセージが公表されました。

第一は、法の支配の確立ということ。法を日本の社会において血とし肉として、しっかりと国民の中に根づかせるということ。権力を持つている国・役所も国民も、平等に公正・透明な法のルールに従うということです。だけれども、いつでも、どこでも、質の高い法的なサービスを受けられるようにする、そういうことが法の支配ということに意味合いとして込められたわけです。

第二は、国民が統治の客体から統治の主体となる社会にしていこうということ。従来、国民はどちらかというと役所あるいは国に「統治」されて、いわば「おかしな依存意識」というものを持

ち続けてきた。これでは二十一世紀の日本の明日はないのだということです。国民がもっともつと自立をして、政治・社会に積極的に参加をし、また裁判も担っていく必要があると指摘しております。

第三は、法律家、特に国民に一番近いところで仕事をしている弁護士役割が、非常に重要だということ。弁護士は、国民の権利の守り手であると同時に、高い職業倫理を持ち信頼し得る正義の担い手として、質の高い法的なサービスを提供する。そういう責務があるというふうに言っております。

（高い理念の意見書）

このように審議会の意見書には、非常に高い理念と画期的なさまざまな提言が盛り込まれました。この意見書に従って司法の改革を推進することになり、二〇〇一年十二月に、小泉首相を本部長とする「司法制度改革推進本部」が政府内に立ち上げられました。閣僚はすべて本部長になるといって、いわばオールジャパン体制で司法改革が始まったわけです。

（弁護士などの増員）

まず大きな改革は、法律の専門家の数を大幅に増やすということです。現在、弁護士が二万人、裁判官が二千五

百人、検事が千五百人というのが大まかな数で、二万四千人いるわけですが、これも、これを二〇一八年までの約十五年間に、ほぼ倍の五万人体制にするというのです。そのために毎年の司法試験の合格者が現在、千五百名から千六百名ですけれども、これを徐々に増加させ、二〇一〇年からは約三千人、毎年合格者が出てくるというふうにしていく。

単に数を増やすだけではなく、質の高い法律家を大勢育てるために、二〇〇四年四月から法科大学院という制度を新たに設け、原則三年かけてじっくり法律の専門家を育てていくというシステムになりました。現在、全国で六十八の法科大学院が設置されておりあります。

（裁判員制度の導入）

二つ目の大きな改革は、新たに裁判員制度を導入することにしたことです。これは、二〇〇九年、いまから五年後に実施されていくことになっておりますが、この裁判員制度というのは、裁判官と、選挙人名簿から選ばれた一般国民が、対等の立場で一緒になって、重要な刑事事件について有罪・無罪を判断する。有罪とする場合にはどの程度の刑罰を科したらいいかということ

を、評議で決めていくという制度です。要するに、戦後初めて国民が裁く側で登場するということになるのです。裁判員に要求されるのは法律知識ではありません。健全な社会常識なのです。裁判官の法律知識と経験、そして裁判員の国民としての社会常識、これがうまくミックスすることによって、より分かりやすい、納得のいく裁判になっていくという発想です。

（ネットワークの構築）

三つ目の大きな改革は、新たに「日本司法支援センター」という総合的な法律支援のネットワークを、国の費用で全国的に立ち上げるということです。市民が、もっと身近に法的なサービスを受けられるようにするためのもので、センターの本拠は東京に置き、各県に支部をたくさんつくります。

そこには弁護士、司法書士とか、法律の専門家が待機し、市民が抱えている法律問題を、これはどこに行つて解決したらいいのか、裁判を起こしたほうがいいのか、あるいは消費者センターへ行つて相談をしたほうがいいのか、ふり分けをする窓口の機能をまず持たせる。

また資力の乏しい方のために、弁護士に法律相談をしたり、裁判を起こす

費用を立て替える、いわゆる法律扶助の事業をここで担うことになりました。

(弁護士・裁判官の改革)

改革の四つ目は、弁護士・裁判官の改革です。今回の改革の俎上に載ったのは、制度そのものだけではなく、その担い手である弁護士・裁判官も、いわばまな板の上に載せたわけですね。改革の眼目はいずれも透明度の高い国民に開かれた職業、開かれた組織にすることです。

例えば裁判官の任命、再任にあたり外部の有識者が加わった委員会、裁判官としての適正を判断していくという新しい制度の導入や、若い裁判官を二年間弁護士登録させ、弁護士の仕事を経験させるなど、これらの制度は、とかく裁判官は世の中のことを知らない、あるいは社会常識に疎いのではないかという批判に依っていかうとするものなのです。

このように大規模な司法の分野での改革が実現することに伴い、日本の司法、あるいは日本の社会というのが一つの大きな方向づけ、いわゆる「法治社会」を迎えたと言えるのではないかと思います。

(法治社会へ期待)

法治社会というのは、法の支配が国民

民の中に根づいた社会。何か紛争が起きたときに行政が不透明な事前チェックだとか、指導をするということで解決するのではなくて、裁判所を中心に司法が公正・透明なルールと手続に従って、迅速に物事を解決していくという社会です。

そして国民がいつでもどこでも気軽に法律家のサポートが得られる。そういうシステムが整備されていく社会です。このように法治社会においては、今までと違って企業も、法や法の精神をしつかり守って、透明性の高い運営順法経営をしていかなければならない時代になってきています。

(裁判の迅速性)

法治社会では司法に非常に期待がかけられ、それに依っていくために、裁判所が迅速にその答えを出していかなければいけない「スピード」が、要請されます。そういうことも反映して、二〇〇三年春に「裁判迅速化法」という法律も出来ました。

この法律が通ったことと、裁判所や関係者が努力をした結果、医療過誤事件とか知的財産の訴訟は、今、ほとんどが一年以内に終結をみており、国際的に見ても、決して見劣りしない状況にまでなってきました。

民事訴訟も割と早い段階で裁判は双方の当事者に主張を言い尽くさせており、証人調べをする場合も人数を限って効率的に行うことも進めているので、随分訴訟の進行が早くなりました。

このほか警察・検察の取り調べの状況をビデオで録画しておく、あるいはテープで録音してはどうかということなどが、議論されているところです。取り調べの一部始終がビデオで録画、録音されることになると、それを法廷で見聞きした裁判官とか裁判員は、取り調べの状況を判断するのが容易となりまし、取調官が誘導していったかというようなことがあれば、すぐ分かる。

こうして日本の司法制度は国民のための制度として、大きく変革を遂げようとしております。ようやく日本にも法治社会が到来し、役所、企業、一般国民を含めて法の精神というものを守るということが大切になってきたという事です。不透明な形で行われていたさまざまな物事の解決が、司法の手によって透明・公正なルールによる適切な手続で解決する。

まさに、新しい司法が日本を変える、そういう時代になってきたということです。

森・濱田松本法律事務所(高校・31年)

表紙絵の言葉

数々の思い出を誘う並木道

私は終戦の翌年、昭和二十一年の四月より十年間、成蹊高校卒業まで、成蹊学園にお世話になった。

成蹊小学校は西校舎と言って、現在の部室などが並んで居る所に在った平屋木造の教室を使って居り、雨の日は数ヶ所から雨が洩り、バケツで受けて居た。

下校時は、毎日のように成蹊のケヤキ並木の道を通って帰って来た。この並木道は、秋の紅葉時も美しいが、その後に来る冬も、葉が落ちた後のケヤキの枝先の繊細な線が実に美しい。夏の緑の並木も良いが、何と言っても、桜が満開の頃、萌え出した木の芽が開いた新緑の霞のような淡い黄緑の天井が、まるでゴシック大聖堂の柱と天井の穹窿のようなアーチ型を形づくる四月の並木が最も好きだ。

このアーチを水彩でスケッチしてみたが、私の拙い画力では、到底表現できる代物ではなかった。

吉田章夫(高・31年)

特別寄稿

外から見た日本

守田道夫

本稿は平成17年3月18日開催の成蹊高等学校同窓会委員会議（於ニューヨーク・ステラ）で行われた講演を抄録したものです。

ご紹介いただきました、守田でございます。

人間、70歳を越しますと、孫の顔を見ながら、ニコニコしてやわらかな人生を送るといのが、人生一番いいのではないかと思いますけれども、どうも私の場合は、何か不合理なものを見ますとすぐカッカする、腹が立つ。

特に年をとるに従って感情の起伏が激しくなるというか、困ったなと思っているのですが、加えて、独断と偏見で物事を切っていくというか、それで割り切っていくというか、そういう昔か



成蹊会 人成蹊会

らの性質の悪さが、最近、出てきているのではないかなと思っております。

したがってこれからのお話も、多分にそういう視点からの内容でございますので、割り引いて聞いていただくといいと思います。

私は旧制高校二十三回文科の卒業で昭和二十五年に丸紅に入りました。44年の会社員生活のうち海外に出ているのが、ちょうど3分の1弱の14年でございます。最初がマニラ、次がニューヨーク、最後にニュージーランドというふうに3回の海外経験ですが、私の場合残念ながらヨーロッパを知らないのです。ヨーロッパを知らないのは困るのではないかとということで、家内と一緒にヨーロッパを回りました。

最初はスウェーデンに参りました。次にそこを起点にして、英国に行き、二年後には英国からフランスに参りました。さらにハワイにも参りました。「外から見た日本」というのは、現地においてそこから日本を見た場合どうなるだろう、現地社会と日本社会の一体

いずれの社会、考え方が人間にとって幸福かという、極めて青臭い判断の仕方ですけれども、そういった意味合いでの価値観というか、それがいい悪いは別として……。今日はそのお話をさせていただきます。

公共料金・消費税の在り方

日本の物価は高いのか安いのかよくわかりませんが、外から見ると日本の物価は面白いな、おかしいな、という感覚が非常に出てきます。例えば日本はインフラの公共料金の値段が圧倒的に高い。

水道料金、電気料金ですが、私、ニューヨークで最初アパートを借りまして、驚いたことには水道料金が入ってないんです。電気料金は請求が来るのですけれども、水道料金が来ないのでどうしてかと大家に聞いたら、「家賃の中に入ってるよ」と。家賃の中に入っているも見えないくらいに安い。日本の水道料金はアメリカの二・三倍、フランスは一・五倍ということで、水道料金は結構高いんですね。あれだけダムがあつて川があるくせに、なぜ水道料金が高いのだろうと。民間にそれを委託してやろうという話も出てきているようですが、いろいろな規

制があつてなかなか思うように回っていない。

日本の消費税はいま5%です。ヨーロッパにはVAT (value-Added Tax) というのがございます。これは日本の消費税と同じで20%前後です。アメリカのステート・タックスは州によってセールスタックスが全部変わっていますけれども、平均4%で、ヨーロッパに比べると、率が大幅に低い。おまけに、アメリカでは消費税がない州があります。アメリカというのはいろんな顔を持っているんですね。日本みたいに一律に5%という、そういった一律の規制をやっておりません。必ずいろいろなニュアンスを持って、多少とも下げたり上げたりするというか、非常にソフトな税制を持っているようです。

実はフランスの話ですが、19・6%とかなり消費税は高い。コートを買いだいたいと思つて店に行つて見た。4千フランの値段がついているんです。1フランは20円ですから8万円くらいするわけです。これに消費税分が2割プラスされると4千8百フランとなるわけですがこれでも結構安い。中に入つて店員に聞いてみたら、払うお金は4千フランで結構ですと。「じゃ、

2割の消費税はどこに行ってるの？」

「中に入ってますよ」と。いまは日本の

消費税も外税から内税に変わって、5

%は中に入ってますけれども、要する

に2割の消費税が中に入っても、まだ

日本の物価より安い。これは一体どう

いうことなのか。それがとにかくショ

ックだったですね。こんなに物価が安

くて、2割も消費税が中に入っている。

さらに驚いたことに、「あなたは旅

行者で非居住者だから、サインしてく

れたら、日本に帰ったらちゃんと税を

リファンドしますよ(返します)」と。

クレジットカードで買ったわけですが、

日本に帰って二カ月くらいしたら、14

%ぐらいちゃんと返ってきたんです。

驚きましたよ。要するにリファンドし

てくれるというか、そういったものが

一つの常識になっているということ。

本当に経験してみないとわからない。

それからハワイのガソリンはリッター

一十五円ぐらいです。日本でいま百

十一円、百十二円。ハワイのほうが半

分以下ですね。ハワイの州税(消費

税)は4%ですが、ガソリンに関して

はゼロです。抜いてあります。そうい

った意味での行政のやわらかさはガソ

リン価格でも感じるわけです。

日本のガソリンの税金はリッター五

十三円八十銭です。ということは、ガ

ソリン価格は絶対それ以下にならない

んですね。さらにそれに5%の消費税

がかかるということは結局どういうこ

となんだろう？ 何か税の二重取りみ

たいな格好になっているのではないか

という気がしております。

政治に金がかかり過ぎるというが？

政治におカネがかかるとよく言いま

すよね。だったら、もう少し議員さん

の数を減らしてみる、あるいは公務員

の数も減らしてみたらどうだろう。

まずその辺から始めていかないと、

なかなか国民としては納得できないの

ではないかということ、アメリカの

上院議員の数を調べてみましたら、何

とちようど百人です。下院は四百三十

五人。四百三十五人と百人を合わせま

すと、五百三十五人ですね。日本の場

合、参院が二百四十二人、衆議院が四

百八十五人ですから、七百二十人を超

します。人口は日本のほうが半分の割

には、議員さんの数が多い。もっと減

らしても間に合うのではないかという

感じがします。

アメリカのセネターというのは日本

の議員連中よりもよく仕事をしている

のではないかと私は思うわけです。だ

から日本は、もう少し議員の数を減ら

して、むしろ少数精鋭主義でいいので

はないかという気もしないではありま

せん。

次に国家公務員の明細と自衛隊員の

人員構成についてです。今日、公務員

の数が4百万を超えているとは思わ

なかったですね。それが実際に数

が多いか少ないかというのは、いろいろ

な見方がございますし、一概に軽々し

く言うわけにはいかないのですけれど

も、少なくとも見ている範囲では、郵

政省の28万というのはやはり民営化し

てもいいのではないかというふうに思

います。

一方でちょっとかわいそうなのは、

自衛隊だと思えますね。防衛庁の職

員は27万7千人です。本当に動いてい

る人数は24万しかないわけです。平和

憲法のおかげで、自衛隊に対する見方

が相当厳しいようでございます。

では、隣国の状況を見るに、中国は

2百30万人います。北朝鮮に至っては

百八万の人間を抱えているわけです。

アメリカは百40万です。しかし、24万

くらいの自衛隊で果たして日本の国が

守れるのだろうかという問題がありま

すけれども、それに対してあまり批判

が出てこない。別に私は自衛隊を支援

している派でも何でもございませんけ

れども、軍備状況というか、人員配置

から言うと、何かあった場合、一体ど

うするんだらうという危惧というか、

怖さというものを感じます。

いづれがヒューマンな社会か？

人間が幸福であるためには、人間味

のある温かい社会でなければいけない

と私は思っています。97年に英国から

フランスに参りましたときに、飛行機

もありますけれども、ユーロトレイン

といいますが、ドーバー海峡を渡って

いく列車があるわけです。一回それに

乗ってみよう。

「どのくらい？」と言ったら、「シニ

アであれば奥さんともども半額になり

ますよ」と。「二等に乗っても一人当

たり2万円切ります」というから、ち

よつと高いなと思っただけでも、一回

乗ってみようかということで切符を買

いました。

シニアというのはオーバー・シックス

ステイです。ヨーロッパの社会という

のはゆとりがあるというか、セコくな

いというか、堂々としているというか、

弱い者を何とかしてやろうという気が

あるのかどうか、この辺はよくわかり

ませんけれども、とにかく見事なもの

ですよ。

日本の場合、助かりますのは、映画館に行くとしニアは千円ですね。日本のシニアに対する措置というのは結構厳しいというか、あまりおらかではないですね。なぜでしょう。そういうことを、実際に外国を回ってみますと痛切に感じるわけです。

実はハワイにもよく参りますが、向こうにB&Bというのがあります。これは日本の民宿並みですけども、朝ご飯だけですけれども、普通の民家の一室に泊らせてくれる。結構広いところで、そういう設備がございます。

そこでいろいろなお話を聞いているうちに、「400坪くらいありますけど、これだけの土地を持っていたら固定資産税が大変だろう？」というふうな水を向けましたら、60歳を超えたらだんだん税が低減してくると。「俺の場合、固定資産税はゼロに近いよ」というふうに笑っていました。これまた立派なんだなあという感じですね。日本の場合、年を取ろうと何であろうと固定資産税は固定資産税、きつちりと取ります。ここでも、かなり弾力性のあるやり方をしているなというふうに思われるわけです。

また話は飛びますが、都市設計を見

ていますと、ロンドンにしてもパリにしても、新市街と旧市街ははっきり分かれているし、古いものはそのまま残しているという非常に温かい面があります。

パリの16区あたりは高級住宅地と言われているんですけど、道は狭いし、その狭い道の両側にダブルパーキングしていますので、真ん中はちよつとか空いていない。そこをクルマで行くわけですけれども、クルマそのものが小型車なんです。日本みたいにオートマチックではなしに、マニュアルのクルマが多い。

免許を取ったときは確かにマニュアルで取っているはずなんです。そのため、オートマ車では運転もできなくなるということで、ヨーロッパというのはそういう意味で、質素というか、方針を変えないというか、なかなか立派なものだと思います。

それから、ストックホルムの街など見ていますと、カーブを緩くして、電動モーター付きの椅子が上がついていけるようにちゃんと設計しているわけです。驚きました。とにかく歩道橋というのは日本だけの発明ではないかと思うくらいにヨーロッパではどこに行っても歩道橋はお目にかかれせん。

アメリカの地方都市「ポートランドの顔」(略)

情緒的支配原理としての「和」

これは問題は何かというところ、行政と個人の問題。もつと言葉を変えて言うところ、国家と市民社会。日本で市民社会といつても、あるのかどうかよくわかりませんけれども、そういった問題になってくるのだらうと思います。欧米社会というのは、行政と個の間に緊張関係があると思います。行政が何かサボると、すぐ個人に噛みつかれる。個人が何かサボると行政が噛みつく。こういう関係で非常に緊張関係があるのではない。目に見えませんが、日本では日本の場合そういうものがないんです。お互いになあなあムードです。役人のクビを切るにしても、「あいつだつてやってるんだから、切るのは大変だよな」とか、そういった問題で何となくやややになつてしまふ。論理性と批判力が欠けているんですね。日本というのはもともと「和の国」で、聖徳太子以来、「和を以て尊しとなす」といった情緒的な支配原理といえますか。結構、和というのは強制力があるんですよ。「出る杭は打たれる」とか、「長いものには巻かれろ」とか、

そういったものに個人が負けてしまっている。

和というのは決して悪い言葉ではないのですが、どうも日本の場合、そういう意味での無言のプレッシャーみたいなものを含んでいると思います。最後に結論みたいなものを申し上げます。

結局、どちらが住みやすいかということですが、私は、外から見ている現地社会のほうが住みやすいのではないかなと。日本のほうが住みづらいということをあえて言いませんけれども、比較すると、どうしてもそういったことになつてしまふ。

以上、いままで申し上げたお話はすべて独断と偏見でございまして、そういうことも含めて、割り引いてお考えいただいたらありがたいと思います。

どうもありがとうございました。

(拍手)

丸紅エネルギー(旧高・25年)

私の成蹊学生時代・夢の読書三昧生活

みずはら あやこ
水原亜矢子 (文・59年)

私の母は、成蹊中学の入試科目が「国語」と「算数」の二教科であった時に、「シメタ」と思ったそうである。私は小学校時代から国語が得意であり、算数が苦手である。合格するには、とにかく算数だけを、ひたすら勉強すれば良いのである。他の学校の入試にある理科の勉強は、まったく出来ない生徒であったのだ。その分、国語、特に本・物語が好きだった。よく夜中、布団をかぶっては、小説や詩を読み耽けては母に怒られたものである。だから、国語は特に勉強をしなくても、点数は良かった。まあこうして母の作戦(?)は当たり、無事、成蹊中学に入学でき、それから成蹊大学を卒業するまで、私の読書三昧の学生生活は続いたのである。そしてこの事は私の後の俳人としての資質を決定づけたと言っても過言ではあるまい。まず思い出すのは、中学に合格した報告がてら、当時西荻窪にいた、桜桜子を訪ねると、大層喜んでくれて、「もう安心だ。これからは、落ち着いて、俳句の勉強ができるよ。」と言って俳句を詠んで持って来るように勧めてくれた。そして、句を作るのに、素晴らしい地であり、自分も好む、奈良、京都を旅行し、俳句する、吟行の方法なども教えてくれたのである。私は、本屋に行き、ありきたりの平凡なガイドブックを求めたが、同時に、土門拳の気迫をこめた仏像の写真集を買った。当時結構な値段であったと思う。毎日学校から帰っては取り出して来ては眺めていた。見ていたのではなく、写真の気迫を読んでいたのである。

また、学校の図書室には、小学校と違って本がたっぷりあり、私は大満足だった。図書室に毎日の様に通り手当たり次第読みに読んだのである。いわゆる名作と言われる純文学も読んだが、まったく異なるジャンルの外国物の推理冒険小説のモーリス・ルブラン著のアルセーヌ・ルパンが好きだった。堀口大学訳の美しく、ワクワクするような文体と、怪盗のさっそうとした紳士ぶりに魅せられていたのである。もちろん、これはルブランの想像上の人物でありストーリーも奇想天外である。が私はこういった本から想像する楽しさを十分識ったと思う。やがて想像は、

創造につながり、それは私の俳句の個性として表われ始めた。

私の句で「稲妻や横顔は罪映し出す」という句があるが、これは、まさに外国風ミステリーの雰囲気で作句した好きな句の一句である。もちろん、日本物の松本清張の作品である「けもの道」からは、「夏の恋互いに食みてけもの道」という句を作り出した。犯罪を犯しながらも切迫感あふれる男女の恋の様子を表現した作品である。一体、よく私は読者から句は、本当に、経験した事ですかと、聞かれる事が多いのだが、それは体験ではなく、学生時代の膨大な本から、句のイメージーションをもらっているのである。もちろんただ読むだけではなく、その本のストーリーや文体が醸し出す独特の雰囲気にまで入りこんで、読み戯れなければ、そこから作品を作り出す事は出来ない。また優れた文学作品であってもすぐに俳句が出来るわけではなく、多くの読書量の中から醸成され、やがて、私の感性と日本独特の季語と合った時に作品は産まれるのである。そういう理由で私の俳句の師は、桜桜子と成蹊学園の膨大な図書と言えると思う。本当に感謝をしている。最後に「バラ活けて偽りの夜動き出す」これは、成蹊中学の時、高校の時又読み返し、大学の時にもう一度というように年を経る毎にくり返し読んだイブセンの「人形の家」のノラが、自立の決意をする所に感動して詠んだ一句である。……。血は受け継がれるものでしょうか、今私の娘が二科目で、受験し成蹊の高校生でやはり猛然と私がお世話になったあの図書室通いをし、何やら俳句を詠み出しているようなのです。

随想

成蹊会誌用箋

成蹊の真の教育の桜が咲いた

アパッチ
APACHE

一冊の本との出会い

私は老人の車椅子を押していた。その傍らに彼の娘が付き添い、数人の見送りと共に、出国ゲートの方へ歩いて行った。彼の背を見ながら数日前に見たテレビの対談を思い出した。この老人と作家井上靖さんとの対談である、その中で老人の一言が私の心に残っている。「人間は生きていく間に一冊の本との素晴らしい出会いさえあれば人生でこんな幸せはない。」

いよいよ別れの時が来た。上海行き飛行機が彼を待っている。また中国の

多くの国民も彼の帰りを待っている。彼の名は作家巴金さん。

七、八年前に枯林忌に初めて出席した。中村春二先生の心力歌のテープが流れ、「心の力」の本を手にした時、巴金さんの言葉を思い出した。これこそが生涯で出会えた一冊の本であった。この話を後の枯林忌追悼会でお話した事がある。「心の力」を読めば読むほど自然と向き合つて見たくなった。早速息子と二人で滝行をしに真冬の深夜に高尾山の蛇滝に車を走らせた。星空がともきれいだつた。綺麗な程、外は凍てつくほどの冷たさである。車を

降りて行場に向かう。山道を歩きだすと自然の香りがする。川の流れを聞きながら暗い夜道を歩いているうちに体がだんだん熱くなる。そのうちに滝の音がだんだん近くに聞こえてくる。石仏にローソクをあげ、滝に向かい氣を入れて滝に打たれる。体中から大声で真言をとなえたと体の感覚も無くなり、頭の中が無になる。滝からでると体から湯気がでるが、しかし手ぬぐいで体をふくと手ぬぐいが棒のように凍る。寒さとは対象的に実には心は穏やかである。体も爽快。懐中電灯を片手に暗い山道を歩きだす。ただただ、前へ前へと歩くうちに高尾山薬王院の近くまでたどり着く。ふと、下界を見下ろすとそこには赤々と光り輝いているではないか、下界から見るとここは別世界である。薬王院の大広場に二人だけ座つて目を閉じていると向こうのほうからほら貝の音色と共に僧侶たちがやってきて読経が始まった。

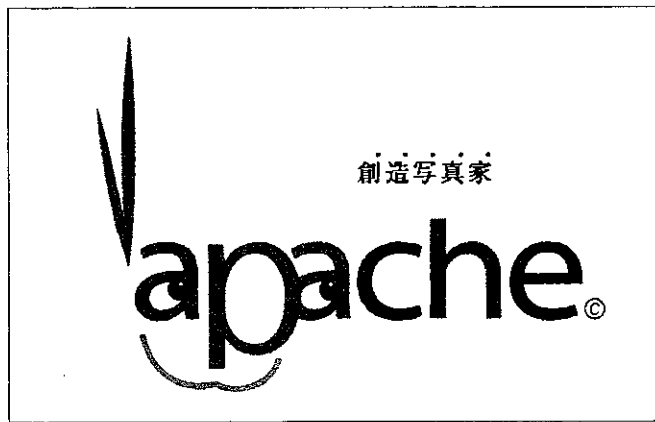
外へ出ると太陽が顔を出しながら輝き下界を照らしていた。

一枚の写真が伝えたもの

1972年6月8日、ベトナム戦争の最中、南ベトナム軍への空軍機が自国民に対してナパーム弾を投下すると



いう悲劇的な過ちをおかした。AP通信社のベトナム人カメラマン、フィン・コン・ウトさんはライカM2のカメラに35ミリレンズを取り付け、中にはゴダックトライX、ASA400のフィルムを入れ、逃げまどう村人たちに向けシャッターを切った写真「戦争の恐怖」が世界中に配信された。皆さんもこの写真を見れば思い出されるでしょう。1973年のピューリッツァー賞を受賞したこの一枚の写真が世界中の人々の心に戦争の恐怖を伝え、アメリカの反戦運動に大きな力を加える一因になったということを。撮影場所はベトナムのTrang Bangで、写真の真ん中で少女が裸で泣き叫び逃げている。そしてこの一枚の写真が、当時9歳の



キム・フックさんのその後の運命をも変えた。彼女は重症の火傷のため17回もの皮膚移植手術を受け、戦争の悲惨さを身をもって体験した。彼女は1997年から国連ユネスコ親善大使に任命され「戦争のない世界を子どもたちに」をテーマに掲げ世界中を駆け巡っている。さらに、キム財団を創設して戦争の犠牲になった子どもたちの救済に当たっている。

写真家名をAPACHEに

私は1965年に(株)日本写真家協会会員になった。そして去年協会の会員

による「新潟県中越地震被害者救援写真即売会」の作品から名前をAPACHEに交えた。名刺制作に当たっては40年の付き合いのデザイナー伊藤勝一さんの協力を得た。APACHEのAPは私の似顔である。この名刺を見て思い出したことは私が小学生の時、本館の前庭で、今村繁三さんからの似顔入り名刺をいただいたことであつた。私の記憶に残っている今村さんはお洒落で優しく懂れの人で、見習いたいような方である。

APACHEの職業は創造写真家です。私にとって「創造」とは、無から今までに人々が目にしたことの無い感性を引き出すことであり、人物の顔を撮るときは、その人物の生き様を瞬時に捉えることである。しかも「創造」とはマニュアルが無い。マニュアルで仕事する人々には無縁である。私が出会った一冊の素晴らしい本「心の力」は私の感性を研ぎ澄ます最高の武器である。己が無になると何でも見えてくる、滝に打たれるより精神を鍛えることが出来る、世の中が楽しくなる、そして何よりも素晴らしいことは相手の気持ちるを思いやるゆとりが出来ることである。私は仕事の前は凝念で始める。自然と仕事に集中することが出来る。また仕

事の傍ら暇を作り我が家で農作業をしている。こうした私の生き方を教えてもらったのは成蹊の教育そのものだと思う。

成蹊人を撮る

今私が参加している成蹊のOB活動は本業と同じく写真の会(写真会)である。

3月19日この会の仲間15人とぶらぶら撮影会をした。神田明神を回り、湯島天神近くの天庄で天麩羅の昼食をとった。久しぶりの味は旨かった。午後は根津神社まで足を伸ばし、その途中池之端で我々成蹊人は旧岩崎邸に立ち寄った。

一方後輩の依頼で3月26日成蹊大学卒業30周年記念合同同窓会の記念撮影のため港区高輪にある開東園に向かう。開東園に来てやつと、岩崎小弥太さんに会う事が出来たような気がした。素晴らしい別世界である、成蹊人がこの様な場所ですべての出来栄の成蹊を創立した人々のおかげである。いよいよ250人ぐらゐの成蹊人に向けシヤッターを切ったとき西日が彼らを照らしていた。皆、心優しい成蹊人の顔がファインダーを通して私の目に焼きついた。

この間、長山藍子さんの小学校の同級生達と三越劇場へ「胡桃の部屋」を見に行った。上演中、この舞台は彼女一人の活躍で持たせているのではないかと、ふと感じた。彼女は写真家から見てとても魅力ある人であり、本物の女優だ。紀伊國屋書店発行の「学問と情熱」シリーズの中村春二先生のDVDを新宿の紀伊國屋ザンシアター、枯林忌、成蹊桜祭、とたて続けに何回も見ると機会に巡り合ったが、飽きないのは朗読の長山藍子さんの声である。疲れを忘れさせる心地よさがある。彼女もまた成蹊の桜並木を歩き育った素晴らしい成蹊人である。

残念ながら今年の「第28回成蹊桜祭」は桜の花が咲いていなかった。それにもかかわらず6000人もの人々が参加した。

やがて桜祭も終わり人々も学園を後にした時、桜祭実行委員と学生たちが無心になり泥まみれで掃除をしていた。それは凄まじい量の量だった。しかし彼らの姿は素晴らしかった。日が暮れて薄闇の中に成蹊の真の教育の桜が咲いた。彼らもまた美しい桜を咲かせてくれる「成蹊人」である。

小林 誠 創造写真家(高・36年)

故

谷岡喜久蔵氏の

お別れの会

平成十七年二月五日 吉祥寺第一ホテルで営まれた谷岡家主催の「お別れ会」での成蹊会連会長の追悼の辞を掲載します

追悼の辞

社団法人成蹊会顧問 谷岡喜久蔵さんの御霊前に、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

谷岡さんには予てより病気が静養中と伺っておりましたが、お元気なご様子に安堵いたしておりましたところ、突然のご逝去の報に接し大変残念でなりません。ご看護に当たられたご家族の皆様のお悲しみ如何ばかりかと拝察し、衷心よりお悔やみ申し上げます。

谷岡さんは、終戦後、同窓会活動も思うにまかせ昭和二十二年に成蹊会を再興しようという先輩方の勧めもあって、まず、謄写版印刷の名簿作りを始められ、続いて「成蹊会誌」第一号を刊行して同窓会活動の再開を果たされました。故今村繁三先生が、「今後成蹊会が発展した暁には、公共事業を併せ行なう団体になりたいものだと思う」と谷岡さんを前に語られたことも、

そのきっかけとなったのでありましよう。その成蹊会も昭和三十年、加藤英夫会長のもと谷岡さんの大変なご努力の甲斐あって公益法人化を実現されました。

「文部省にお百度参りして任意団体から社団法人に組織変更をした」と谷岡さんが述べられておられましたように、大変なご苦労であったと拝察いたします。今村先生は社団法人設立の翌年ご逝去されましたが、谷岡さんにとっても社団法人設立を見届けていただけたことは大きな喜びであつたに違いありません。

社団法人設立と同時に谷岡さんは成蹊会常務理事として、後の公益事業の基盤となる基金の確立に奔走され、育英奨学事業、学術・教育助成事業、国際交流事業、スポーツ振興事業の各事業を軌道にのせられ、その後の母校成蹊学園への継続的な支援の礎を築かれました。さらに都心に会員親睦用のクラブとして成蹊クラブを設立され、又本部から遊離した存在であつてはならないと全国の支部組織を育成されるなど息継ぐ暇もなく山積する課題をひとつひとつ着実に推し進められましたことは、今更私の贅言を要しないところであります。

谷岡さんは、「成蹊会の存在意義は『会員相互の親睦』と『母校の支援』にあり」、その活動を支える根本は、会員の動静を把握する戸籍としての「会員名簿」である、と事あるごとに話されておられました。その思いは、成蹊会発足の淵源となる昭和十一年に

創立者中村春二先生の十三回忌を期して、同窓生が一致団結して募金を募り、学園本館のヒマラヤ杉の下に中村先生の胸像を建立し、除幕式において胸像の前に全卒業生を網羅した成蹊会名簿第一号を捧げて成蹊会の名の下に各学級別同窓会の大団結を成し遂げた当時の卒業生の思いと同じであります。それは正にこの歴史的な場面に生徒の一人として参列された谷岡さんご自身のご経験に基づくものでありましよう。会長職はご自分の任に非ず、と固辞され、常務理事として歴代の会長を支え続けてこられました谷岡さんも、平成五年、周りの期待に抗しきれず永井邦夫会長の後を受けて第十代の成蹊会会長に就かれました。しかしその後病を得られ、如何ともし難く、一期二年で会長を退任され、その後は顧問と



して、引き続き成蹊会へのお力添えを賜わりました。

谷岡さんは、母校成蹊学園にご自身だけでなく、子・孫三代がお世話になつたと話しておられました。成蹊一家として、成蹊会をこよ

なく愛された谷岡さんの人生は、誠に幸せであつたというほかありません。

現在、母校成蹊学園では創立百周年に向けた事業を進めており、成蹊会としてもこれを後援・協力して、来る百周年を成蹊会にとつても又輝かしい新たな一歩として踏み出したいと念願しております。百周年事業を契機として学園との新たな協力関係を築くことで谷岡さんのご意思を継いでいきたいと存しております。

成蹊会会員の皆様とともに、谷岡さんのこれまでの功績に対して、ここに改めてお礼を申し上げます。谷岡さんのご遺徳を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成十七年二月五日



成蹊大学学位授与式における祝辞

会長 瀧 秀彦

只今ご紹介いただきました成蹊会の
瀧でございます。

皆様には、成蹊大学ご卒業おめでと
うございます。

こうして学園の同窓会を代表して、
皆様のご卒業をお祝いできますことを、
大変嬉しく思っております。

母校成蹊学園は、大正十三年に池袋
の地から現在の吉祥寺に移りましたが、
当時は一面の桑畑でありました。そこ
に教職員・生徒の手により櫻や桜などの
樹木が植えられ、その後も先達の大
変なご努力により、現在の緑豊かな成
蹊の教育環境が作られていきました。
皆さんは、多くの先輩が作り上げて
きた、この素晴らしい環境のもとで大

学生生活を過ごされましたが、これまで
の多くの卒業生もまた成蹊キャンパス
に深い愛着を持ち、その思い出を記憶
されております。成蹊学園の卒業生が
世代を越えて同じ思いを共有している
ということは大変素晴らしいことであ
り、私どもの大いに誇りとするところ
であります。

成蹊学園では、成蹊学園創立者、中
村春二先生の「個性の尊重」「品性の
陶冶」「勤労の実践」という成蹊学園
建学の精神に基づき、少人数による一
貫教育の方針が貫かれております。校
歌の一節に「宇は大なり母校成蹊の
宇」とありますが、小学生から大学生
まで一つのキャンパスで家族的な雰
気の下で過ごす

平成 16 年度 成蹊大学学位授与式

平成 17 年 3 月 19 日 (土) 午前 10 時

於 大学体育館

式 次 第

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 開 | 式 |
| 2. 学 位 記 授 与 | 式 |
| 3. 学 長 式 辞 祝 | 辞 祝 |
| 4. 学 理 事 長 祝 祝 | 祝 祝 |
| 5. 成 蹊 学 会 代 表 謝 | 謝 |
| 6. 在 学 生 代 表 | 代 表 |
| 7. 卒 業 生 | 卒 業 生 |
| 8. 校 | 校 |
| 9. 閉 | 閉 |

環境は、大学から入学された方
であつても、この成蹊の校風に
触れ、建学の理念に基づく教育
の実践により、家族の一員とな
つてこの成蹊を巣立ち、社会各
層で幅広く活躍をされております。
皆様にはこ

れからの大いなる活躍を期待して
おります。

さて、成蹊学園の各学校を卒業され
た方は、同窓会であります。「社団法人
成蹊会」の会員となります。少し成
蹊会について説明をさせていただきます
ますと、会員数は、今回ご入会の皆様
を含めまして、既に七万四千名を超え
ており、十一を数える学校・学部別の
同窓会を中心として、皆さんがお
住まいになる国内外の各地域、お勤め
になる企業や、皆様が所属されたクラ
ブOB会、ゼミOB会など、卒業後の
同窓の絆を深める様々な集まりを支援
しております。また、成蹊会は文部科
学省より公益法人の認可を受けた団体
でありまして、私どもの母校「成蹊学
園」の支援を中心とした公益活動も実
施しておりますが、特に現在成蹊学園
は、七年後の平成二十四年に創立百周
年を迎え、その記念事業に取り組んで
おられます。卒業生の目は常に学園の
発展に向けており、成蹊会では募
金活動にも積極的に協力をさせていただ
いております。

皆さんは、これまでの学生時代には、
同窓会の存在を意識されることはほと
んど無かつただろうと思います。しか
し、これから社会に踏み出される皆さ
んにとって、仕事を通じてお会いする
多くの先輩卒業生に接する機会を得る
ことで、成蹊の卒業生であることを強
く意識されることと思います。ご多忙
な毎日で、機会を得て、同窓会の活動
に参加することはなかなか難しいとは

思いますが、成蹊に対する愛着、同年
次の仲間や先生方をなつかしいと思う
気持ちは皆同じでございます。各学
校・学部、地域、職場、クラブ、ゼミ
を含め、様々な卒業生が集う機会がご
ざいます。毎年四月の第一日曜日には
ホームカミングとしての成蹊桜祭も開
催し、多くの卒業生のほか、在校生・
先生方も集います。また、卒業十年毎
の節目に学部の横断的な合同年次同窓
会を開催します。とりわけ卒業十周年
の年次同窓会は学園の全面的な協力を
得て今年が初めての開催となります
が、皆様方も十年後の学園キャンパ
ス内で再会される機会を設けていた
だきます。その際、大学のご協力に
よりご選任をいただき、ご就任をお願い
いたしました各学部五名ずつの年次委員
の皆様のご協力を得て開催させていた
だこうと計画しております。是非卒業
後は、これらの機会を通じて同窓の絆
を深めていただければと存じます。

最後になりますが、成蹊学園がこれ
まで社会の信頼を得てこられましたの
も、ひとえに卒業生が社会の有為な人
材として活躍をされてきたからに他な
りません。皆様方にも、これからは成
蹊の卒業生として、皆様方の後に続く
後輩のためにも、ご尽力を賜れば有り
難く存じます。

改めまして、皆様方のご卒業をお祝
いし、成蹊会へのご入会を歓迎します。
皆様、おめでとうございました。
有難うございました。

なり会員は成蹊会の存在意義を見直し、学生も成蹊会の存在を知り万事好転すると思います。最終的には会費納入率の向上が期待されます。(旧高24 男性)

先の項目での名簿の整理と同じですが、

- ・現状特定できず。(逆にサービス内容一覧があれば有難い。)(政経1 男性)

と、一覧できるものがまず必要です。

成蹊会オリジナル品は是非欲しい。

- ・ピンバッジ・Tシャツ・スカーフ・マグカップ・本館など古い建物のペーパーラフトから・お酒まで数多く提案いただきました

- ・とにかくなんでもやってみれば良いと思います。規制するよりも条件を設定して商品化の支援をすれば良いと思います。(経23 男性)

というスタンスでやりましょうというご意見も。「いらない」というご意見はひとつもなかったので、この項目については意見の一致をみておりました。ただし、

- ・できるだけ良品、品のあるもの(政経15 男性)

ということでしょうか。

成蹊会誌への提案

通算100号の節目を迎えた成蹊会誌について、今後、会員により親まれる会誌とするために、

- ・会員動静を充実してほしい。(法12 男性)

というご意見に代表される、会員に関する情報の充実をますます期待するご意見が圧倒的でした。

誌面サイズをA4版に大きくしたことに關しては概ね好評でした。

名簿の今後

「その他の会員サービス」の項目には多くのご意見をいただいたのですが、最もご意見が多かったのは名簿に關してでした。昨年、成蹊会会員全員を1冊にまとめた名簿を作成したのですが、

- ・今回5センチにも及ぶと思われる名簿が送られてきました。この名簿を喜んでいる会員はどれくらいいるであろうか？(法8 男性)

- ・名簿送付が必要か不要かの選択を会員にさせてほしい。かさばるし、連絡とるのに必要な人間の住所は基本的に把握済み(文19 女性)

といったご意見を複数いただきました。卒業後年数が経てば経つほど、交友関係も固定化してくるものですが、現在成蹊会では会をさらに活性化するために卒業後の周年同窓会を学部を越えて(例えば大学卒業20周年)行うことを始めました。そのために4学部がひとつになった名簿が必要との認識から今回の名簿作成に到りました。CD-ROM化も当然検討されたのですが、パソコン環境の違い等を考慮して今回は印刷にいたしました。

結局、ただ名前が並んでいるだけのものだったら分厚い名簿はじゃまになるだけ、ということではないでしょうか。最初の項目の専門的な知識や資格、技術を持つ方の紹介制度でも出ていましたが、それぞれの付加価値を名簿の中にどう活かすか、名簿にどう反映すれば新たな価値を生むか、つまり情報としての名簿をどう提供してゆくか、が重要になってきたということです。また、個人情報保護との兼ね合いも大きなポイントです。さらには、「行方不明者」をできる限りなくしてゆく努力も必要です。次回の名簿作成ではこれらが大きな課題になるものと思われます。

今後も会員の皆さまの忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

多羅尾智子(法・52年 総務企画委員)

成蹊会の活動に関するアンケート 結果報告

総務企画委員会（2004年12月実施）

情報の流通が急務——会員アンケート報告

一般のアンケート結果をご報告申し上げます。今回は択一方式ではなく、自由記入としたので、回答数は減少しておりますが、充実した内容が多く、大いに参考になりました。

毎回アンケートにご協力いただいている皆さまには大変感謝しております。

専門知識を会員間で有効利用を。

専門的な知識や資格、技術を持つ方の紹介制度については、

- ・税理士、司法書士、不動産鑑定士等、特に司法関係専門職への紹介制度があると利用価値が高いと思われます（法 17 男性）

- ・医師による健康相談（政経2 男性）

というご意見に代表されるように、期待は大きいようです。また、

- ・小生は最初は専門分野からスタートするにしても民間企業をいれるのも一考かと思います。なぜなら小生はラグビー部のOBですから先輩も多く相談相手にあまり困ったことがないのですが、意外にも当社の火災保険を切り替えるとき誰に相談したらいいのかわかりました。（損保に多くの先輩がいますが……）ジャンルを広げていくのがいいと思います。例えば育児相談とか。（経23 男性）

というように特別な資格を持たなくても、仕事の中で培われてきた専門知識を活用したいというご意見もありました。これが実現しますと、例えば自宅でパソコンを新たに立ち上げたい時に技術的な相談に乗ってもらおうといったことなど、技術的な支援にも発展させていけるのではないかと思います。会社という組織を離れると、パソコンソフトのインストールですら自分ですとなると一大事業になってしまいがちですが、十分な知識と経験を持っていて、定年その他で時間を費やせる同窓生に相談できれば双方にとって大きなメリットになるかもしれません。

そのためには、

- ・名簿で職業種別に人名をまとめると利用しやすい（文4 女性）

というように、情報をうまく流通させないと広がっていかないでしょう。

同窓会・会合の支援強化で成蹊会を活性化

成蹊会事務局による同窓会・会合の支援に対しても

- ・①会合通知 ②出欠の確認 ③名簿の保管（連絡先の整備） ④会合場所の紹介 ⑤料理のパッケージ化 ⑥先生方の所在 これらはOB会として充実してほしいです。数年前小学校卒業20周年を開催しましたがとても感じました。（経23 男性）

というように、同窓会等の幹事を経験した人なら具体的支援体制の拡充が急務であることを実感されているようです。さらに期待を大きくされている中に次のようなご意見がありました。好循環になっていけばもっと成蹊会に意味が出てくるということです。

- ・優れた企画で①草の根クラス会の支援では、情報も入り入会者の増加も期待できます。②後続新入会員が無く高齢化した同窓会では周年行事の開催が事実上不可能な現状です。学生アルバイトの紹介が強力なカンフル剤的支援と

第28回 成蹊桜祭



学園岸理事長の挨拶



開会挨拶でDVDを紹介する野村委員長

前日までのどんよりと曇った空がうそのように明るく、暖かな桜祭となりました。昨午が土砂降りの雨の中での開催だったので今年の晴れ渡るような空には思わず嬉しさがこみ上げてまいりました。

さくらの開花予想から一週間が経っているにもかかわらず、まだ一分咲きの状態で、お花見にはちょっと早いのですが、暖かな春の日差しに誘われてか、来場者は始まりから好調な出足となりました。

今年の桜祭は、2月に創立者中村春二先生の評伝DVDが出版されることを受けて、プログラムの表紙に、中村先生の胸像がデザインされた作品が選ばれました。そのような経緯もあってこれまでの本館2階への踊り場にある戦没者慰霊碑のほか、中村先生、賛助員の今村繁三氏の胸像、岩崎小彌太氏のレリーフにも献花をいたしました。

3年前から桜祭のテーマは成蹊教育の原点を知っていただくと言うことで、これまで「信念」「心力歌」「鍛錬主義の教育」をシリーズとしてテーマに取り上げてきましたが、今年は「少人数教育」に焦点を当てることになりました。今年は成蹊小学校の28人学級制の実施初年度となることから、それを現場で実践される小学校の岡崎忠彦校長から、プログラムに紹介文を書いていただき、併せてイベント広場でのオープニングにおいても説明、ご挨拶をいただきました。

今年のイベントは例年通りの本館前広場で行われました。司会は、現在日本テレビ土曜日朝の「ウエーク」のキャスターとして活躍中のフリーアナウンサーで工学部卒業生の用稲千春さんで、彼女のさわやかな声にのせての開幕となりました。

オープニングを飾ったのは、オレンジのハッピ姿も勇ましい小学校和太鼓で、力強い太鼓の響きが体中に伝わってきました。続いて、赤のジャンパー姿も決まった野村委員長の挨拶に続き、学園の岸理事長にもご参加いただき、ご挨拶をいただきました。

プログラム2番目は小学生から一転、旧制高校卒業生有志による寮歌・運動部部歌です。大先輩方の若々しい歌声は、現役学生も圧倒されてしまうほどでした。またOBオーケストラはコーラスの方たちとの息もぴったりで、美しいハーモニイを聞かせてくださいました。中高ウインドオーケストラは、現役生徒らしい律儀さで正確な演奏でした。オーケストラOB、OGバンドは今年大流行のマツケンサンバをキンピカ衣装の指揮者の軽快なリズムにのって、耳だけでなく、目までも大いに楽しませてくれました。

昼過ぎになると模擬店の中には売り切れの店が始めの頃の賑わいとなり、中でも冷たいビールや絞ったジュースは好調でしたが、寒さに強いモツ煮やおでんの模擬店は、売り上げ達成に苦心された様子でした。

今年の同窓会会場は小学校のトンネル山グラウンドに建てられた仮校舎となる北一号館でしたが、樹齢を重ねたさくら並木を通して向かう会場となる各教室の殆どが同窓会場として使用され、大勢の卒業生が久しぶりの集



正門前の横断幕



小学校岡崎校長の説明



司会の用稲千春さん



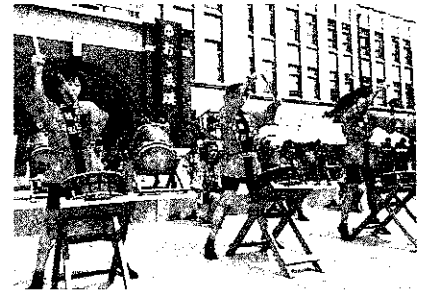
一分咲の桜を見上げる来場者



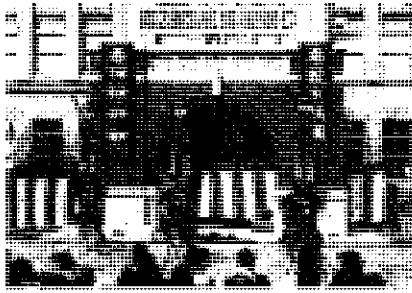
競技ダンス部の演技



勢揃いした旧制高校卒業生



小学校和太鼓の熱演



息の合ったチアリーダーの演技



OBオーケストラ・コーラスの演奏



中高ウインズオーケストラの演奏



ベンチャーズバンドをバックに閉会挨拶の
布川副委員長



お祭り広場のヨーヨー釣り



人気のエアー・トランボリン

いに話の花を咲かせ、旧交を温め合いました。キャンパスツアーは大学受験生向けと思いきや、小学校受験を目指す若い親子連れが大勢参加されている姿を見ると、成蹊の一貫教育が根強く支持されているように感じるのは私だけでしょうか？

馬場での乗馬サービスでは、ポニーも登場して子供たちの人気を集めていました。着ぐるみのパンダやカエルも人気でしたが、それを着ていた学生さんたちは暑くて大変だったようです。ご苦労様でした。トラスコンガーデン内のお祭り広場では、こみち父母OB会によるマドレーヌ販売が今年も行なわれ、売上金を校募金としてご寄付いただきました。またパソコンゲームやソーラーカーでは工学部の学生さんにもご協力いただき、大勢のかたに楽しんでいただくことができました。今年も(財)アイメイト協会のご協力により、盲導犬体験歩行もおだやかな日差しを浴びておこなわれました。子供たちもワクワク、ドキドキしながら初めての体験歩行にチャレンジしていました。貴重な体験の機会を提供できたことはとても有難く思います。イベン

ト広場に一段と大勢の人を集めていたのはチアリーダーの演技でした。高いリフトや息の合った演技に大歓声が上がっていました。数年ぶりに競技ダンス部のデモンストレーションも行なわれ、優雅で軽やかなダンスには、会場を埋めた大勢の方も、しばしうつとりと見とれていました。プログラムの最後を飾ったのはベンチャーズバンドの演奏です。懐かしい数々の曲の演奏に加えて、エンディングとして「今日の日はさようなら」をみんなで合唱して閉幕となりました。

最後になりましたが、前日の会場設営、当日の運営進行、終了時のゴミの片付けとお手伝いいただきました学生の皆さんには本当にありがとうございます。また、運営を支え、ご協力いただきました学園関係の皆様にも心から御礼申し上げます。また来年もこの美しい桜のもと成蹊学園で再会することを楽しみにしております。

当日、皆様からご協力いただきました募金全額は、校募金として校養生のため学園に寄付させていただきました。

千代延町子(文・51年)



本館前庭の茶道部野点



先生と〇日の写真展



盲導犬との体験歩行



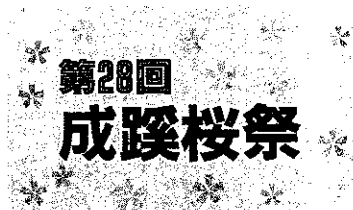
ソーラーカー



ポニーも登場した乗馬サービス



パソコンゲーム



桜養生のための桜募金へのご協力

学校・年次会

のつどい

小学校卒業 40周年



9月26日に大学10号館12階にて、小学校第49回卒の卒業40周年記念3クラス合同同窓会を当時の担任の野田彰先生、大西貢先生、伊東良延先生、新舟清先生にご出席いただき開催しました。PTAや授業参観でお世話

になった父母や本人の家族を交えた80余名で4先生を囲み賑やかに時間をすごしました。

入学式をはじめ夏の学校の乗風台や赤ふんどし、二十日大根を収穫した園芸、白虎刀をリュックにさして帰京した修学旅行など懐かしい写真を編集した思い出のスライドショーでは、40年のタイムスリップを楽しみました。本年逝去された村上莞爾先生をお招きできなかったのが残念でしたが、40年前の先生の写真を前に昔話に花が咲きました。

記念の成蹊の徽章とイニシアルを入れた傘を手にとられてますますお元気な先生方に喜んでいただき、同窓生の思い出の1ページができました。また、新たな母の会が発足しそうです。

滝浦幸子（小・40年）

はちの子会

小学校で昭和25年から6年間、佐藤茂先生のクラスで一緒だった東組の「はちの子会」が10月15日に開かれました。佐藤先生が亡くなられてから暫く途切れていた会も2年前の名幹事のおかげで復活。ほとんど皆が還暦の昨年は、幹事がマゴマゴしているうちに過ぎて、やっと今回開催にこぎつきました。



西組、南組と違って恩師不在の東組ではありますが、いざ開催となれば連絡は早く、男子12

名、女子6名の参加がありました。

やはり、佐藤先生の想い出は多く、野球の練習をしすぎて夏休みも授業をしたこと、国語は熱心に教えてくださったが、算盤は指一本で足し算、引き算だけだったことなどがありました。が、又教わるのも佐藤先生とは全員一致でした。

私たちも、サラリーマンを終えて、独立した人、再就職した人、悠々自適の人、名医で有名な人、孫に迫り捲られている人、元々自立している人、家業にしがみついている人、人それぞれではありますが、当日は小学生に戻って、昔の思い出に浸りながらお互いの近況報告に耳を傾けました。今回、残念ながら欠席だった方のメッセージも披露され、参加者はクラス全員という感じでした。

桜祭で恩師が居られる西、南組に何回か押し入った経験のある私はやはり、故郷東組のクラス会をもつとやるべきだと深く反省した次第です。

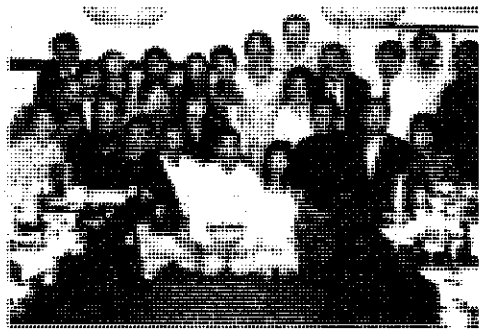
飯田又右衛門（小・31年）

清忠先生のご定年をお祝いする会

昭和四八年、中学入学時から三年間、F組担任として私達仲間をご指導いただいた、清水忠明先生が三六年の教員生活を終えられました。

先生の長年に渡るご勤務を慰労して、去る平成一六年十月一七日、新宿駅東口の、郷土料理の店「くらわんか」にて「清忠先生のご定年をお祝いする会」が行われました。当日は先生のお誕生日の二日前でもあり、還暦・誕生日お祝いの兼ねての集まりとして、非常にタイムリーな開催日となりました。

卒業時四三名いたF組の仲間のうち、当日は二五名が集まり、「当時と全然変わっていない人コンテスト」をすれば、おそらく一等賞であろうと思われる清忠を囲んで、大変賑々しく、大爆笑の内に時間を過ごしました。清忠を囲む会合は、卒業以来二度目、一度は平成一二年に行っていますが、今回は当時参加



大爆笑の瞬間を捉えた記念写真
を掲載して、和やかな会合の報
告文に代えさせていただきます。
す。

服部真久(経・58年)

横手長治先生の 喜寿のお祝い会

平成16年11月13日(土) 東京
會館1Fシェ・ロッシニにて、
横手長治先生の喜寿のお祝い会
が開催されました。

今回は高校17回I組の同窓生
の企画で、横手先生を含め16名
の出席となりました。

司会進行は小川孝一さん、そ
して山崎啓三さんの乾杯の発声
で会は始まり、高校時代に戻っ
たかのように会話に花がさき、
とても楽しく会は進行致しまし
た。

横手先生は、数年前からゴル
フを始められて、教え子やお嬢
さん達と一緒にゴルフ場をまわ
られて、楽しんでいらつしやる
ようです。また先生は最近ワイ
ンよりも日本酒をたしなまれて
いらつしやるとのこと、いきい

できたかった、井本雅子さん
(現在米国・テキサス州ヒュ
ーストン在住、今回の会合の為に
一時帰国)や、自称アメリカに
マジシャン修行に行っていた大
場秀郎君や、インターネットで
どうやら探してたソムリエの
篠崎雅之君も元気に参加され、
再会を懐かしんでいました。

次回からは、個別に小グルー
プにて先生をお誘いして、うま
い酒と肴、そして学生時代の思
い出話という「最も旨い酒の
肴」で楽しもうかな?などと考
えている悪い元中三F組の仲間
達の声もチラチラと聞こえてい
ました。

さて、「一声掛けてからシャ
ッターを切れよ!」と言う声に、
「記念!」と声を掛けた瞬間、



きとお話されている先生の元氣
なお姿を見て、嬉しく思いまし
た。

会の途中で先生への喜寿のお
祝いとして、記念品と花束が贈
呈されました。そして最後に記
念撮影をしたあと、2次会へ移
動しました。会場は東京會館内
のバー・ロッシニでしたが、全
員が参加、会話も更に弾み、楽
しいひとときを過ごすことが出
来ました。

次回はより多くの同窓生が集
まることを願ひ、みな、名残お
しみながら散会となりました。

佐方節子(高・41年)

工学部 同窓会総会

平成16年11月21日(日・櫻祭
期間中) 工学部同窓会の総会が
第二学生食堂(旧教職員食堂)
にて開催されました。

13:00~15:00に開かれた総
会では、会長の佐治邦彦さん
(経営工学第2回卒)の挨拶の
後、上原信吾工学部長による理
工学部の概要説明が行われまし
た。プロジェクトを駆使して詳
細な説明がなされ、母校の一段
の発展に全面的に協力して欲し
いと上原工学部長より依頼があ
り、卒業生一同心を一つにして
協力する決意を新たにしました。
乾杯のご発声は、当日ご出席
の最年長であられる島原健三名
誉教授にお願いしました。その
後、各学科の主任教授による学
科の近況報告が為されました。
また、成蹊会常務理事の国府寺
様による締めくくりの挨拶があ
り、広く成蹊学園全体の同窓会
としての成蹊会の一層の発展に
寄与して欲しいとの要請があり

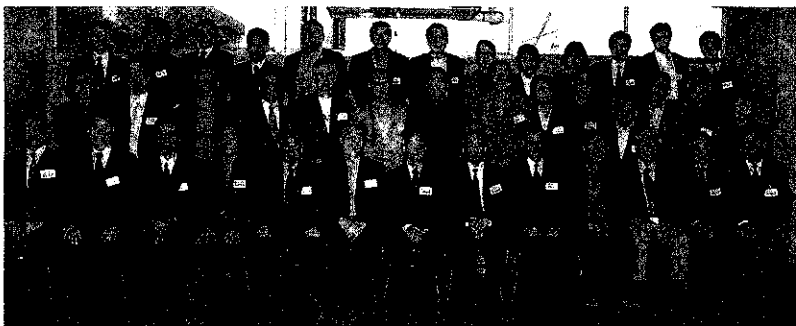
ました。

なお、当日の出席者は以下の
通りです。

名誉教授 島原健三、来賓 国
府寺敬二成蹊会常務理事、張明
国中国化工大学教授

現役教員 上原信吾教授(B)、青
木正喜教授(E)、加藤明良教授(C)
小方博之助教授(M)、大倉元宏助
教授(A)

機械工学科OB 前沢三郎(1)、
岡田健(2)、増田勝也(2)、橋本竹



第12回清和会総会

先生の高徳を偲び、合わせて相互の親睦を続けるため、「清和会」という名称のもとに門下生が集まる中村清一ゼミ同窓会の総会（隔年2月（ご命日月）開催）がさる、2月26日（土）、岩崎健三先輩（第4回）のお口添

夫(4)、伊藤宏(11)、今井英和(29) 電気工学科OB 明山哲(1)、石郷岡猛(1)、菊池隆(1)、森山善弘(1)、井上哲(2)、大島庸元(2)、両角慶久(2)、大久保泰之(3)、多田真弘(6)、島田寿正(11)、佐藤昌代(32)、浅井崇(33)、安達弥真人(33)、荒井宏仁(33)、坂巻洋介(33)、高橋秀治(40) 工業化学科OB 戸谷洋一郎(2)、岸肇(3)、山南隆徳(8)、近藤利英子(9)、斎藤光行(4)、原節子(10)、瀬沼宏章(12)、川上憲司(37) 経営情報工学科OB 斉藤重彦(1)、林醇一郎(1)、朝比奈孝秋(2)、佐治邦彦(2)、穂保国雄(4)、高橋道哉(11)、石垣順史(19)。以上45名 石郷岡猛（工・41年）



えで、京王プラザホテル47Fにて行われました。当日は来賓として成蹊会の瀧会長にもお出で戴き、幹事年次である田中奉文君（第16回）の進行役で始められました。

伊藤和行清和会会長（第1回）の開会挨拶、瀧成蹊会会長の祝辞並びに学園の近況報告、市川徹幹事長（第4回）の報告に続き大丸義夫先輩（第6回）のご発声により乾杯をして、当日出席した80名の方が約2時間の間楽しく歓談されました。

盛会の半ばで朝比奈孝一先輩（第6回）より、会員の元気なうちに中村先生の追憶を記録しておきたいので「成蹊清和会誌（仮称）」の編集が進められているとの説明があり、本年7月末

成蹊カウラ会

3月12日（土）、毎年恒例となっている成蹊カウラ会が吉祥寺第一ホテルで催されました。谷正紀中学高等学校校長はじめ、現役留学生、OB・OG、成蹊会、成蹊コミティーの先生方、ホストファミリーの方々計33名が集まり、これからオーストラリアのカウラ高校へ出発する成蹊高校1年の前澤牧さん、現在成蹊高校で勉強中のカウラ高校からの留学生リーア・トレープ



の投稿期限に向って全会員が取り組まれたいと話されました。なお諸事情で本総会に参加されなかった方々にも既に要請文と応募要領が送られていると思いますので、奮って投稿をお願いいたします。

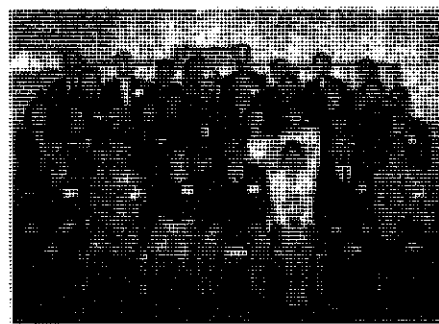
最後に浅野孝雄先輩（第10回）の指揮の元、校歌を一番から3番まで元氣よく歌って又2年後に再会しましょうということで散会しました。

根岸孝昌（政経・42年）

スさんの歓送迎会を行いました。今年は留学生、OB・OG以外の方にもスピーチを頂く機会を多く設け、それぞれのお話を聞くことができました。以下、抜粋でご紹介したいと思います。

通常ですと帰国した留学生（今年は成蹊高校1年の山田青来さん）を交えての会ですが、今年は都合により帰国前の開催となり、代わりにお母様にご参加、お話を頂きました。お話によると、カウラではホストファミリーの一員として暖かく、時には厳しく家族の一員として迎えられているとの事です。最近では、帰国をしたくないと言うのが口癖になっているようです。私も12年前のこの時期に同じような事を両親に言った記憶があり、大変懐かしく思います。

成蹊高校の成蹊コミティーからは、代表して英語料のミレン先生よりお話し頂きました。ここで先生より「このパーティーは本来全員が英語で話をするべき場所です。」とのご指摘を受け、OB・OGのスピーチは英語でスタートする展開となりました。毎年この会へ参加をした直後は、英語のレベルアップを図ろうという熱い思いが生ま



また、リーア・トレープさんの現在のホストファミリーにもお話し頂きました。日本へ来てまだほんの数ヶ月ですが、ディズニースイーツ等の人気スポットへ連れて行って頂くなど、楽しい時間を共有されていらつしやるようです。

年に一度の集まりで時間も限られて居る為、今年もあつという間に時間が過ぎました。

お忙しい中たくさんの方々にお集まり頂き、この留学プログラムは多くの方々に支えられている事を再確認致しました。

日頃からお世話になっている成蹊会、先生方、ホストファミリーの皆様、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

吉田美保（高・平7年）

大学卒業30周年 (昭和50年卒業)

さわやかな晴天の3月26日(土)、大学卒業30周年(昭和50年卒業)全学部合同同窓会が、高輪御殿山にあります、旧岩崎家別邸の「開東閣」にて開催されました。当日は日本全国は言うに及ばず海外からも出席者があり、総勢約250名の会になりました。

当日は、岸理事長、栗田学長



瀧成蹊会会長をお招きして、素晴らしい庭園での全員の記念集合写真から始まりました。30年ぶりに再会した同窓生たちのその月日のブランクを埋める歓談は、想像をはるかに超え、開会の辞やご来賓のご祝辞が聞き取りにくい程、盛り上がりつていました。また友人の大変貌に思わず首から下げた名札で名前を確認し、若かりし時の容貌を互いに思い出している人など、楽しい時間はあつという間に過ぎ、最後に全員で校歌を斉唱しお開きとなりました。

今年から成蹊会の定例行事という位置付けになった30周年合同同窓会が、今後ますます充実し、発展しますことを同窓生一同祈念いたします。成蹊会の方々のご協力、本当に感謝致します。有難うございました。(30周年合同同窓会幹事一同)
※当日のスナックは成蹊会のHPに掲載します。

高橋龍一(法・50年)

船越学級 クラス会

4月早々の成蹊校祭。今年は幸い一日中、暖かな陽気に恵まれ、船越先生は娘さんの後藤早枝さん(高16回卒)と共に元気な姿を見せて下さる。三年振りに出席して頂けたので、皆、安堵な思いを抱く。先生と再会が出来た喜びや、久々な想いが重なり、自然と心穏やかな空気に包まれていく様だ。尤も、1911年12月11日生れというご長寿。今年の誕生日で満94才になられるとのこと。思わず、先輩から「テレビの百歳万才!」に出て下さい。」とエールが掛かる。

先生はご挨拶の中で、「自分は職業上、研究者として少しづつではありますが執筆を続けて来ました。そのことが私を健康にしてくれているのだと思います。」と述べておられた。

今回はクラスメイト(高12回卒)の内、仰木怜、原島正雄両君の訃報が知らされる。皆の中で驚きとご冥福を祈る気持ちが広

がり、二人の友への想い出話等で偲ぶ一時を持たせて頂く……。やがて一人二人と参加者が増え、延25名の方が集い合う。今回も城戸毅、寺田明(高5回卒)、鈴木昭郎(高8回卒)の先輩方がお見えになり、クッキーの差し入れを下さったり、近況をお話し頂いたりしながら、先生と会話を交わされ、寛いでおられた。

クラスや学年を越えてどなたでも飛び入り参加が自由な当会。今年もその特徴を活かし次の方々が、正にボランティア精神で盛り上げてくれました。

日産自動車(株)と共に歩んだサラリーマン人生を二冊目の本に纏めた高岸春嘉君。「ケイタイのうしろ側」星雲社を持参し、希望者にプレゼントして下さい。又、この会の集合写真を始め、先生や参加メンバーの大事な瞬間の数々を記録して下さい。つかりメンバーに溶け込んで、二次会以降の場を20年以上も世話し続けてくれている野村尚武君。今、再び学究として大学院生(情報コミュニケーション)の現役というパワーを感じさせてくれる佐藤幸楽君、等々。参加者全員が



いろいろと話題を提供し合い、力を寄せ合うことにより成り立っている皆の会ですので、紹介し切れません。お許し下さい。

この日、この時集い合う出会いは、ひとときの語り合う場では有りましたが、ゆつたりとした大切な時間が流れ、お互い「これから」に生かされて行く様な気が致しました。

会のピーク時では、先生の提案で万才「マンセイ」という発声で「を唱和して、誰しもが「先生の如く長寿は間違い無し」という土産を頂いた様でした。

来春には貴方も先生が和室

最後になりましたが、本記念
総会並びに懇親会の開催に際し、
労をお執り頂いた成蹊会の高橋
事務局長にお礼を申し上げます。

大西一雄（工・58年）

第七回 SGCゴルフ大会

第七回のSGCゴルフ大会は
平成十六年十一月十四日（日）
市原後楽園ゴルフコースで開催
されました。



このゴルフ大会は七年前に体
育会OBが中心になって「四人
の団体戦」としてスタートしま
した。今回は体育会系クラブ二
十六チームを含む合計三十三チ
ームが参加しました。
表彰式の際参加者全員の賛意
を得て、学園創立百周年記念募
金へ十万円を寄付致しました。
当日の成績は次の通りです。

団体優勝

ゴルフ部（280・4）

準優勝

硬式野球部（289・4）

個人優勝

伊藤幸雄（N68・2 G85）

準優勝

斉藤邦治（N68・6 G77）

西川 廣（政経・44年）

50年振り開催 ESS O B 会

皆さんこんにちは。昭和49年
（法学部政治学科）卒の三浦隆
と申します。今回は成蹊会誌を
通じまして成蹊大学ESS（英
語会）OB会を50年ぶりに開催



致しました事をご報告致します。

昨年の11月20日（土）大学の
釋祭開催時に大学構内にある第
二学生食堂に於きまして《第一
回 成蹊大学ESS2004年
度OB会》を開催致しました。
本OB会には、ESS卒業生約
700名の内、約100名の諸
先輩、後輩の方々が国内外から
駆け付け参加して頂きました。

圧巻は、初代ESSの会長を
務められた1953年（昭和28
年）卒の矢野様、同じく初代副
会長を務められた牧野様が揃っ
て今回の会に出席して頂き、そ
れぞれ乾杯、そして閉会の挨拶
を当時の思い出と共に懐かしく、



力強くして頂きました。

100名に及ぶ参加者は、ま
さにESSの50年超に及ぶ歴史
の重みと意義そして喜びを感じ
た瞬間であり、また学生時代の
悲喜交々の情景が走馬灯の様に
思い浮かんだ瞬間でありました。
何十年振りに同期とまた先輩、
後輩と会い語らった2時間はあ
つと言う間に過ぎ、終了予定を
40分近くオーバーし、またの再
会を約束し散会致しました。

主催者としては、今回集まっ
て頂いた多くの方々への感謝の
念と、また今年も第二回OB会
開催が出来るよう新たに気持ち

を引き締めた次第です。また今
回開催に至る準備をして頂いた
85年卒の田辺さん、88年卒の岡
田さん、現役4年生の神子さん、
今回の司会を務めた74年卒の尾
日向さん、そして会場の確保、
指導、助言を頂いた成蹊会事務
局の高橋さんには、衷心より感
謝いたします。本当にご苦勞様、
有難う御座いました。

三浦 隆（法・49年）

写蹊会 秋季撮影会

9月の総会終了時、世話人の
N氏より、「新宿から乗換え無
しに横浜迄行けるので、時間的
な問題は心配無い、横浜はみな
とみらい地区を中心にエキジ
ズム溢れる被写体に富み、シャ
ッターチャンスも多く桜祭に出
展出来る様な良い作品が撮れ、
撮影会には好適」とのお話があ
り、写蹊会では初めての日帰り
撮影会を企画することとなりま
した。

かくて参加の有志は15名、11
月15日（土）湘南新宿ラインに

乗車、30分後に横浜に到着、シ
ーバスに乗船後直ちに撮影準備
に入り、山下公園迄の船上で撮
影を試みましたが、時間的に早
いこともあり撮影を妨げる障害
物は無く、海側からの視界は建
築物や港湾施設等平素とは違っ
た視野からの撮影を可能にしま
した。

船を下り、公園の情景を楽し
みながら、撒き餌に群がる鴉の
群れや人懐っこい鳩を撮影、特
にホバリングする鴉の動作と距
離の測定を調整するのに、かな
り苦闘した様です。

日差しが強くなれば公園に集
まる人も増え、若者達が繰り広
げるストリートパフォーマンス
や、偶然遭遇した野外結婚式も
恰好の撮影対象となりました。

港の見える兵公園を経て外人墓
地に至る行程も、スナップに適
した動体にも恵まれ、犬と人物の
微笑ましい関わりや戯れる子供
の表情など、意識しない動作の
中にシャッターチャンスを見出
すことが出来ました。

昼食後、町並みや人の往来を
収録後、日本丸の撮影の為再び
港へ移動、町並み以外の本日唯
一の静態撮影となりましたが、
広大なスケールと撮影場所の選

択、並びに部分強調撮影の範囲
決定を如何に処理するか改めて
考えさせられた場面もありまし
た。

夕刻も迫る野毛商店街の学園
OBが経営する中華料理店「万
里」で反省会を兼ねた夕食会が
催され、幅広い写真談義に花が
咲き楽しい一時となりましたが、
この様な行事を通じ相互交友を
広める事が会の基盤強化と発展
に繋がるものと満場一致で確認
しました。

写眞会世話人一同

準硬式野球部 創部50周年記念 式典・祝賀会

準硬式野球部は、昨年で創部
50周年を迎え大学10号館におい
て、12月5日に記念式典・祝賀
会を行いました。

ここに50周年を迎えられたの
は、OBと現役による長年のた
ゆまぬ努力と切磋琢磨によるも
のです。また、OB・現役10
0余人が成蹊大学の素晴らしい
会場に集まり、50周年記念式
典・祝賀会を、無事執り行うこ

とができましたのは、ひとえに
諸先輩がたから現役まで脈々と
途切れることのない準硬魂のお
かげだと感じております。

当日は、12月にしては非常に
心地よい日差しの中で、現役諸
君はもちろんのこと、創部に尽
力をつくした山本圭介・山本良
介両先輩を始め多数のOBと来
賓の前顧問教授の黒沼名誉教授、
成蹊会連会長、高橋事務局長、
空手部長島OB会長などのご出
席をいただきました。

会場では、式典の始まる前か
ら、あちらこちらで顔をほころ
ばせながら昔話に花を咲かし、
高井OB会長や小川体育会委員
長の挨拶をはさみ、山本良介初
代OB会長への記念品を贈呈し
ました。

各学年代表のOBによる苦勞



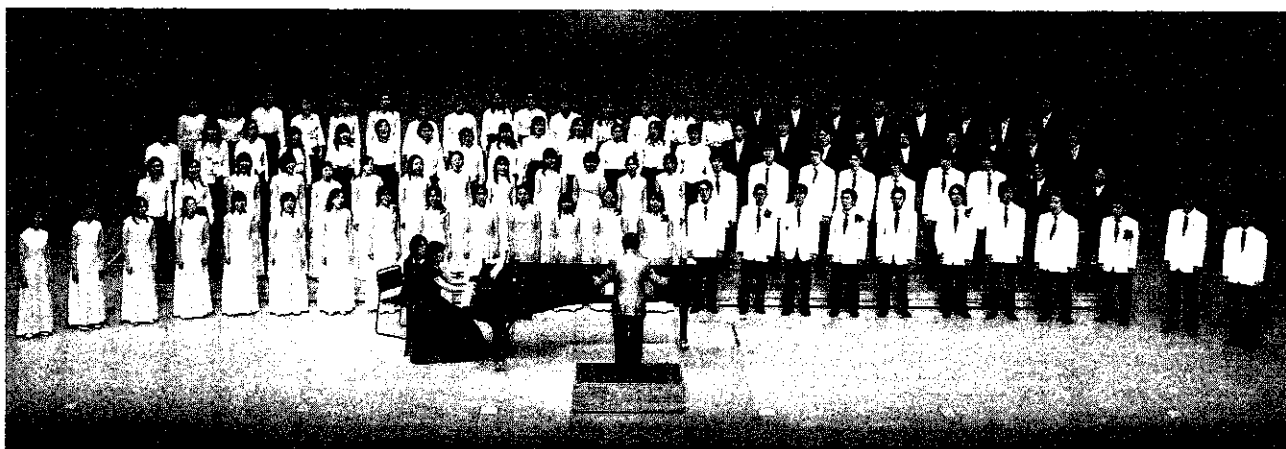
話や裏話に会場は盛り上がり、
OBも皆いつものまにか学生時代
の顔に戻り「おい、こら」の口
調になつていゝ中で、エールの
交換・校歌斉唱で盛り上がり散
会となりました。その後は昔と
つたなんとかで、そのまゝのは
ずもなく、おのおのが吉祥寺で
二次会に流れたのはもちろんで
すが、野球場にも集まり、在り
し日の青春の香りに酔いしれた
一日でした。

飯田 徹(文・57年)

年の瀬が押し迫った、十二月
十八日、第四十回混声合唱団定
期演奏会が武蔵野文化会館大ホ
ールで催されました。四十回と
いう節目の演奏会を迎え、現役
の部員とともに、OB・OG約
五十人が加わりメインステージ
で歌声を披露いたしました。

近年、大学においてサークル
活動や部活動に参加する学生が
減少している中、混声合唱団は
例外的に団員数を維持している
ようです。それは、歌うことを
通じて友情を深め、学生生活を
満喫している様子が、新入生に
も伝わっているからではないで
しょうか。私たちOB・OGは、
卒業後それぞれの道に進み、友
人、先輩、後輩と接する機会が
少なくなりました。必然的なこ
とですが、やはり残念なこと
です。しかし、今回の演奏会にむ
けて週に一度大学の教室をお借
りして練習を行うことになり、
その練習が旧交を温める良い機





会となりました。私たちは練習を重ねることで、歌うことから派生する楽しさを思い出し、年の離れた現役生ともうち解け、更なる友を増やす貴重な機会を得ました。

演奏会当日は、現役生に、OB・OGが加わった大合唱団が、練習の成果を充分に発揮した素晴らしい歌声を披露し、盛大な拍手の中、無事終えることができました。また、終演後大ホール前のロビーで披露したロビーストームでは本番での緊張もほぐれ、笑顔の中にお集りの方々とスバラシイ交歓ができました。最後に、OB・OGの練習にご協力いただいた成蹊会事務局や、演奏会を開くにあたり多忙な中尽力していただいた皆さんに、OB・OG一同感謝いたします。

福田浩一（文・平13年）

清和会山歩き 愛好会 （別称「山酔会」）

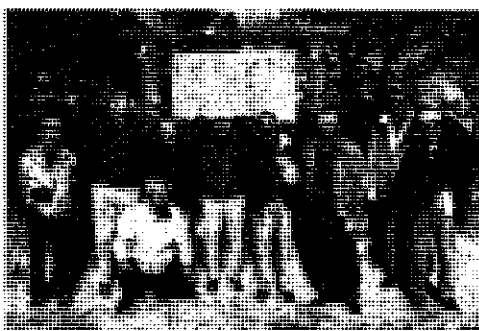
大寒の入り1月20日、低山道通のお誘いを受けて、相模湾の好展望台、標高242メートルの「大楠山（三浦半島）」衣笠城址ハイクにやや太めの体型を誇りたいこともあつて参加したのですが、聞くも涙の物語になろうとは、誰も予想だにしていませんでした。

集合時間は9時半・JR横須賀線逗子駅改札外。8名が揃ったところで出発！しかし参加者1名（本橋一彦先輩）を置いてけぼりにしてしまったのです。（のちに大楠山の頂上で合流されることになるのですが……）後でよくよく考えて見ると、皆が入れ込んでいて出発が集合時間より早くなってしまうらしい。

前田橋のバス停から飛び石状になっている川の中を歩いて、常緑広葉樹の林を陽だまりを求めながら抜け、春は桜が美しいだろうなどと無駄口をたたき、

菜の花畑で写真を撮ったりして、余俗を見せながら国土交通省の観測所のレーダーの白い塔のところに着きました。小休止後、リーダーの塩谷芳彦君の「山頂までもう直ぐ」の巧みな言葉に惑わされ、ぼちぼち歩き出したのですが、道はグラグラと長い登りで、幾重にもクランクして、恨めしい階段の連続登りに、前の人との間が広がるばかり。さっきまで一緒だった清田修先輩もいなくなり、本当に降参状態でした。

ヤットのことで山頂に辿り着き、相模湾から天城、箱根連山、丹沢から富士山、南には大島、房総の山々を眺めながら、アルコールに一息つき宴たけなわとなった頃、ヒョッコリ現れたの



が前記の本橋先輩。一人であの階段道を急ピッチで登って来られたとは……。一同ビックリと同時に平謝り。塩谷リーダーは帰りの電車を降りるまで申し訳なかったの連発でした。そんな中、本橋先輩はいえ、置いてけぼりに苦言を呈することなく、ワイン一杯で直ぐに打ち解け、仲間入りされておられました。さすが大人物、見習わねば。昼食後は次の目的地、衣笠城址公園に向けて私が一番に下山を開始したものの、三浦半島の尾根は起伏が多く、またも悪戦苦闘。こんな自分を前提に置くと、なぜ身長が2メートル近い後藤健君がワインも半分飲んでいてバテないのか不思議でならない。全員9名が揃って衣笠の町に着いたのは3時過ぎ。早速飲み直しの場所探しが始まる。焼き鳥屋のオパサンに店を開けてもらい宴会開始。別称「山酔会」なる由縁これなり。階段道の苦しかったことなど忘れ盛り上がりつつハッピーエンド。次回は階段道の少ないコースであることの希望を出して散会しました。

浅野孝雄（政経・36年）

彩蹊会

今年も1月に成蹊学園OB・OGによる美術展「彩蹊会展」が開催されました。会場には多くの方々のご来場を頂き、なつかしい同窓生の会場の場としての賑いも見せました。

昭和50年の秋、渋谷の画廊でスタートした本展も、今回で第30回を迎えることができました。

第1回の案内状に「成蹊で育った絵を描くことの好きな面々が集って、親睦を計りながらお互いに向上しようということ」で、初回の展覧会を開催します。プロ画家・アマ画家あり、職業や年令はいろいろですが、母校成蹊を旗印にはせず、さらには発展性を願っておりま

多くの方々の長年にわたるご協力により、これまで続けて来られたことを本当にうれしく思っております。

現在の会員は20才代から90才代迄と幅広く、作品も油彩、水彩から版画、コスチュームデザイン、皮や木の実で作った王冠等と多彩です。美術に関心をお持ちの皆様のご参加を心からお待ちしております。

次回「第31回彩蹊会展」は左記の通り開催の予定です。

平成18年1月23日(月) 29日(日)

成蹊で育った絵を描くことの好きな面々が集って、親睦を計りながらお互いに向上しようということ、初回の展覧会を開催します。

第1回 彩蹊会展

ところギャラリー 渋谷
ところギャラリー(株) 11月9日(日)
(AM11:00-PM5:00、要観覧券PM5:00迄)

出品者(五十音順)	北久古 高橋 千子	正 井 也 次 祐 輔 俊 明	のり子 藤 田 美 穂
山 崎 幸 子	村 万 西 木 橋 敦 哉	戸 野 田 山 田 村 明 興	のり子 藤 田 美 穂
渡 伊 崎 上 内 太 朗	渡 巧 油 光 孝 二 二	山 崎 幸 子 野 田 山 田 村 明 興	のり子 藤 田 美 穂
山 崎 幸 子	渡 巧 油 光 孝 二 二	山 崎 幸 子 野 田 山 田 村 明 興	のり子 藤 田 美 穂
山 崎 幸 子	渡 巧 油 光 孝 二 二	山 崎 幸 子 野 田 山 田 村 明 興	のり子 藤 田 美 穂

大学四年生出品
山崎 幸子 小 橋 啓 高 取 日 出 子

第30回 彩蹊会展

(成蹊学園OB会)
平成17年1月24日(月)〜30日(日)

ところギャラリー(株) 11月9日(日)

出品者(五十音順)
山崎 幸子 渡 巧 油 光 孝 二 二
山崎 幸子 渡 巧 油 光 孝 二 二
山崎 幸子 渡 巧 油 光 孝 二 二
山崎 幸子 渡 巧 油 光 孝 二 二
山崎 幸子 渡 巧 油 光 孝 二 二

会場 地球ギャラリー 2,3階
TEL 03(572)4811
中野区南口 1-2-1 地球ビル 4F 2,3階

銀座地球ギャラリー

(03-3572-4811)

(連絡先) 菅野建雄(政経39年)

(電話) 0466-231-118

11)

高木裕(政経・36年)



成蹊ラグビークラブ 歓送・祝勝会

平成17年3月13日、学園の大学10号館12Fホールに於て、成蹊ラグビー部の、現役選手、OB、先生、父母の会の方々、合計で100名を超えるメンバー

が集まり行われた。

これは、この春の卒業生の歓送会、併せて、大学チームが関東大学対抗戦Bグループで、6勝1分けの成績で連続優勝の快挙、又、中学・高校チームも、夫々、健闘し、優秀な成績で、シーズンを終了したことを祝つての催しである。

会は、父母の会を代表して、大学チーム西口朋宏選手(経済学部3年生)の父上からの祝辞により始まった。

ラグビークラブ岸田成器常任委員長(政経18回)から卒業生に対し、より良き社会人として活躍するよう、又、中・高チームの更なる強化、とくに高校チームは花園の全国大会への出場、大学チームはAグループへのランクアップを目指して励んでほしいとの挨拶があった。

今年度迄大学チームの監督であった立松幹朗氏(法3回)より、就任中の2年間、とくにチームの規律を重視して指導してきたこと、今後も成蹊ラグビー部の発展のため努めたいとの挨拶に続き、平成17年のシーズンから新たに同チームの監督に就任することになった緒方啓三氏(工8回)より来シーズンへの



抱負がのべられた。高校チームの監督である土屋嘉彦先生よりメンバーの活躍ぶりが披露されたあと、渡辺一郎先生(元高校チーム監督)の音頭で一同乾杯、交流、懇談の場となった。各チームのコーチの挨拶に続

き、大学チームが、昨シーズンに引続き、優勝の栄冠を勝ち得たことについて、OB会主催による祝勝会へと進んだ。ラグークラブ高島信之会長より、賞讃の言葉と成蹊の夫々のチームが後輩の面倒をよくみるという良き伝統を守り、更なる強化発展を望むとの祝辞がのべられた。

昨シーズン迄大学チームの主将であった三添茂行君をはじめ、中・高・大学チームの卒業生への記念品の贈呈、又、夫々から、コーチ、父母への御礼、成蹊でラグビーをやったことを誇りとしてこれからの人生を過して行きたい等々、感謝の気持ちがのべられた。

東京都ラグビーフットボール協会会長である貴島健治氏（政経12回）より、シーズンに向け、各チームの活躍を期待したい旨の激励の挨拶のあと、新たに大学チームの主将となった山口晋平君（経済学部4年生）のリードで参加者一同で部歌を合唱し閉会となった。

原 一郎（政経・28年）

写蹊会 撮影会 「写真撮影と下町の 味覚を楽しむ会」

3月19日（土）、前日から心配だったのはお天気でした。15人の写真を愛する会員の方々が

参加されるのに、降られては折角の企画が台無しです。然し参加者の中に神様を信する方が居られるのか、今日は曇一つ無い晴天に恵まれました。神様に感謝を！「晴れるや？」、御茶ノ水は聖橋出口に集合後、早速好天を授けて下さった神様へのお礼を忘れず、先ずはニコライ堂に馳せ参ずることになりましたが、塀の外郭から見学すると思いきや、庭内の見学が許され思わぬ撮影機会に恵まれました。

引き返して坂を下れば比較的真近にあり、時節柄合格御礼の絵馬が幾重にも重なり、山の様に膨れ上がった掛け台が印象的な、湯島聖堂周辺を撮影後神田明神に向かいました。

参道入口に構えた団子屋さんの当主とお母様の代から懇意の方が、長寿を祝い記念撮影をす

る場面もあったり、昼食前なのに「歌が流行ってから串に3ヶしか無い団子が増えたが、この店はちゃんと4ヶある」と一人悦に入る方も居り、そぞろ歩けば梅花が今や盛りの境内で、見る機会も稀な神前結婚式の一場面に遭遇、巫女さんや雅楽の演奏に導かれた婚儀の行列は、恰好の被写体となりました。

思えば此処は銭形平次所縁の地、八五郎は事あらば八丁堀近郊から飛んで来たとのこと、或る時代劇の主人公は、遙か見上げる神田明神裏手の石段を一気に駆け上がる等、その健脚ぶりに負けじと更に歩を伸ばし、白梅の背高い湯島天神に到着、参門に並ぶ露店を覗き、咲き誇る梅花や鈴なりの合格御礼の絵馬を収録後、事前に下見をしたK氏と予約を入れたAp氏推薦の天麩羅屋で昼食となりました。

店外に溢れる人垣はお店の人氣を物語り、揚げたてを頬張り、次々と出て来る食材を賞味しながらの撮影談義は、それは楽しいものでしたが英気を養い再び行脚を続け、学園にも所縁ある旧岩崎邸を見学しました。震災前のニコライ堂と同じ名匠コンドルの設計となる重厚な建造物

で、時代の変遷を物語るモニュメントとして、永久にその姿を留めて欲しいと願いつつ、唯一記念撮影の場に選定しました。

いよいよファイナルコースに向かいサトウ・ハチローの住居跡、竹下夢路美術館を右手に暗闇坂を登り東大農学部裏を通過、世にも不思議な上りと下りの段数が違う俗称「お化け階段」に差し掛かりましたが、近年補修されたのか同じ段数に修正済でした。

杜松神社に到着した時は、朱色の本殿は傾きかけた日差しに映え、白梅郡は稲荷に導く赤い無数の鳥居と対照的な色合いを示し、ここでもシャッターを切られた方は多いと思います。地下鉄杜松駅での解散の前に、熱いコーヒを啜りながらの反省会では、反省する迄もなく、今後も撮影会を企画推進することになりました。万歩計の示す13,000を上回る歩数にも関わらず、全員疲労の気配は皆無で無事解散の運びとなりましたが、少年時代この近郊を所狭しと遊びの縄張りになっていた。H氏とK氏の先導と案内があればこそ、今日一日が楽しく過ごせたと感謝する次第であります。

写蹊会世話人一同

学内定期活動報告

学生時代に返り、現在学園で定期的にゼミやクラブ活動を行なっている団体からの報告です。

宇野ゼミ同窓会

生涯学習研究会活動内容報告

会足の経緯

宇野ゼミ同窓会は、政治経済学部時代の1期生（1965年）から34期生（1998年）まで33年間の590名から構成され、年1回の総会を中心に「宇野ゼミニューズレター」や「宇野ゼミ同窓会名簿」の発行等の活動を行っていましたが、平成10年（1998年）春、宇野先生の島根県立大学学長就任を機に、先生より「生涯現役＝知的好奇心を刺激しあう切磋琢磨



磨の場」の創造へ提言や原則毎
回遠路島根県浜田市からの参加
を表明された事もあり、自主的
な生涯学習の場を有志で運営し
新たな活動としてスタートいた
しました。

これまでの活動実績

・第一期（1998年春～2001年3月 計9回開催）
立上げ期（黎明期）として
「21世紀への提言」に関連して
マクロ視点からのテーマで、基
調報告を一時程度行い出席者
でディスカッションを行い最後
に先生にコメントをいただくこ
う形態で運営されました。原
則土曜の午後3時からの毎回

3・5時間はアツという間でそ
の後の懇親会も多く参加者が
年代を越えて当日のテーマで更
なる議論をする懇親の場となり
ました。（これは現在まで変わ
らぬ伝統）基調発表者は、内容
を論文の形にまとめ小論文集
「21世紀への問い」を作成しま
した。

・第二期（2001年4月～2003年6月 計9回開催）
基調報告者を2名とし発表時
間を少し短縮して40分程度で
テーマは各自が決める形で運営
されました。中国を中心とした
国際関係のテーマが多く第一期
同様活動の成果を論文集として
まとめました。

・第三期（2003年7月～
現在まで6回開催 継続中）
基調報告者を1名とし、併せ
てBOOK REVIEW（書評）
も取り入れました。報告はメン
バーの個々の視点（ビジネス・
個人体験等）から様々な分野、
地域、時代に亘るテーマが取り
上げられ、相互に未知の世界に
視野を拡げ、知的刺激を得る好
機会となりました。昨年は先生
の研究（中国革命史）に所縁深
い延安への旅行を企画したもの
の、諸事情により残念ながら延

期となりました。

以上の通り宇野ゼミ同窓会は、
大学の図書館別館にて、「生涯
学習研究会」を開催してまいり
ましたが、会場及び機材の手配
等で成蹊会高橋さんにお世話に
なりこの場をお借りしてお礼申
し上げます。

尚、宇野ゼミ同窓会の活動内容
詳細は下記HPでご確認下さい。
http://www.parkcity.ne.jp/~unosemi/uno_message/index.html

藤本 俊（法・48年）

混声合唱団OB による合唱の集い

当時の仲間と、当時のハーマ
ニーをそのままに、当時歌って
いた曲を歌いたい。

大学を卒業してから二十数年
そんな思いが募り、同期や先輩
後輩など有志が声を掛け合っ
て二〇〇三年五月十日、五十一〇
一教室にて初めての合唱の集い
を開きました。たった一度のこと
、と思っていたのが、成蹊会
のご協力を得て音楽教室の継続

使用が可能になり、現在まで三
ヶ月に一度の割合で開催してい
ます。

この合唱の集いは、昭和五〇
年代に混声合唱団に入・卒団し
たOBを中心に活動しています。



メンバーと同様に年齢を重ねた
当時のヴォイストレーナーの先
生やピアニストを囲んで、愛唱
歌や定期演奏会で歌った曲、さ
らに最近では新しい小曲などに
も取り組むようになりました。

毎回、二十名から三十数名のメ
ンバーが集まり、それぞれの仕
事や家庭のことをしばし忘れ、
気持ちは学生時代のまま、でも
声音は一味違った、大人の魅力
に溢れる合唱を楽しんでいます。

二〇〇五年三月の開催で八回
を数え、メンバーからは、発表
の場を持ちたい、という声も聞
こえています。いつかは小さな
演奏会を。そんな夢を胸に、三
ヶ月に一度の母校通いを続けて
行けたら、と思っています。

梶 葉子（文・55年）

大学茶道部 OB稽古

三年後の茶道部五十周年に向
けた活動の一環として、昨年七
月より月一回を目標にOB稽古
を大学の茶道部道場を借りて行
なっています。

オーストラリア

クレーンズハンズ

成蹊会

リゾート代表の秘書兼通訳を勤める素子 Donoghue (S44 政

このロイヤルパインリゾートはホテル、レストランのほかにもゴルフ場やテニスコートがあります。毎年、オーストラリアンレディースマスターズ

そして Junko Van Doren さん
(旧姓、高橋潤子 S.54 文学部英
米学科) が真冬の日本(富山)

成蹊・州立グリフィス大学の交換留学生（1992・1993の1年間）だったMR. CHRIS RYALLが見つかり声をかけましたが仕事（州立ベルビュー小学校の日本語の先生）の都合で参加できませんでした。成蹊の留学時代は本当に楽しかったし日本語の良い勉強にもなった大変感謝していますとのことでした。成蹊からのグリフィスへの現役の留学生は学期のスタート（2月が新学期）直前のため欠席となりました。

自民党で活躍中の安倍晋三さんのお話から母校成蹊にまつわ

冬真つ只中の2月25日(金)
午後7時より札幌プリンスホテル国際館パミールにて平成17年度「枯林忌の集い」を、本部より瀧秀彦会長をお迎えし、総勢25名の出席を得て開催しました。冒頭、故中村春二先生へ黙祷を捧げ、続いて北海道支部小林敬明(政経9回)会長より来賓である瀧会長及び出席会員の皆さま

北海道支部
「枯林忌の集い」

冬真つ只中の2月25日(金)

んへの謝辞、そして100周年記念事業の概要と募金への理解と協力の要請がありました。また、この集いは、支部の総会を兼ねており、事業・会計報告の後、役員選出が行われ、小林会長が、支部会長に再選されましたことをご報告いたします。

総会後、来賓である灘会長より学園の現況と100周年記念事業に関する大変詳細な経過説明をいただきました。その後、真下正武(旧高23回)前会長の祝杯で和やかに懇親会が幕を開けました。また、今回は、仕事の関係でしばしば来札されている安田信彦(高26回)先輩にも飛び入り参加をいただきました。

懇談の後、恒例の出席者全員によるスピーチが始まりました。最近、子女、孫の学園への入学という同窓にとっては大変うれしい報告が必ず聞かれることも、この集いの楽しみのひとつとなっています。

また、北海道はゴルフが盛んな地域であることはいままでもありませんが、支部としても年に3回のゴルフコンペを行っています。その中で春と秋には4大学対校(成蹊、成城、武蔵、学習院)ゴルフコンペを行って

います。是非、その優勝賞金(わずかではあります……)を100周年事業の寄付に充てようとの具体的提案も数多く出されました。そんな和気藹々とした中、お開きの時間となり、恒例の学園歌の斉唱を混声合唱団OBの村木重夫(工6回)先輩、そして矢部玲子(文14回)

さんのリードで行いました。最後に、島津裕之(政経10回)幹事長のご発声による1本締めにて閉会となりました。

2次会は、会員である小島宏(小59回)君のお店である「ステキハウス ケルン」にて夜中まで盛り上がったことを報告いたします。

最後になりましたが、北海道支部の会員数は、約250名と年々減ってきているのが現状です。特に、道外への転出者の増加が最大の理由です。北海道支部は、札幌だけではなく、旭川地区、釧路地区においても地区連絡会を行っていますので、近隣にお住まいの方は、是非、北海道支部事務局まで(FAX 0133-7511800 大岩メタルワークス 後藤あて)連絡願います。

大岩 勝(工・57年)

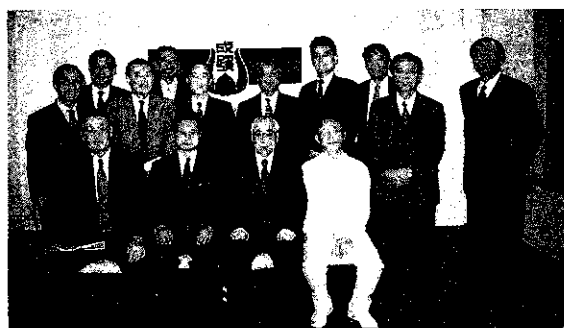
宮城成蹊会



暮れも押し迫った12月15日、平成16年度宮城成蹊会総会および懇親会をホテルメトロポリタン仙台にて開催いたしました。

当日は成蹊会本部より高橋章建事務局長をご来賓にお迎え、小田島司郎会長をはじめ会員15名の出席をいただきました。

はじめに小田島会長より東北支部として発足以来のご苦労などを交えた挨拶、高橋章建



成蹊会事務局長より学園近況報告、各地域同窓会の現況などのお話をいただきました。事務局からは毎年年末に開催していた総会、懇親会の時期の変更のご提案(皆様が参加いただけますよう今年度から夏に実施)、現在の会員数および会員からの出欠の返信状況を報告させていただきました。懇親会に移りました。

懇親会では、出席会員の近況報告など会員同士の懇談、在学中の思い出話など時間の経つのも忘れ大いに盛り上がり、最後にグリークラブOBの倉田泰雄先輩のリードで成蹊学園校歌を合唱しお開きとなりました。

お願い…宮城在住の成蹊学園卒業の皆様、転勤などで在仙の方ぜひ一報下さい。

ソニー生命保険 村田昌三
メール: syouzou-murata@sonylife.co.jp
電話 022-299615301
村田昌三(法・52年)



千葉支部の親睦イベント



千葉の歴史と文化を訪ねるタウンウォーキングー

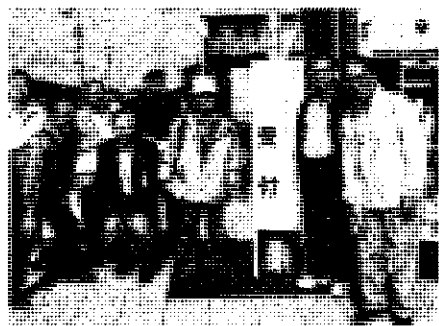
さる、4月9日、千葉城さくら祭り実行委員会「会長は当支部長の安田敬一氏」主催の「千葉の歴史と文化を訪ねるタウンウォーキング」に千葉支部会員10名とともに参加した。

当日は絶好の花見日和、満開の桜のなか、京成千葉駅をスタート。青葉の森、千葉大学医学部構内、郷土博物館、猪鼻城址、千葉市美術館、千葉神社、JR千葉駅と回る8kmのコースである。さすが、JR千葉駅に着いたときは疲労困憊したが久しぶりに充実感も味わった。

千葉支部会では毎年、7月の



千葉大学医学部構内
日中友好の碑の前で



出発前に勢揃い

催致しました。岸理事長及び学園、成蹊会からと新入会員の参加も多数あり79名の参加者が有りました。

今までと趣向を変え乾杯に先立ち桐明学園卒のお嬢様お二人によるヴァイオリンとピアノ演奏が有りました。

乾杯のご発声は参会者中の最長老にお願いしておりますが、今回は昭和18年旧制高校卒の澤田隆治先輩にお願いし、続いて懇親会に移りました。

初めての参加者の方々も直ぐ会話の輪に溶け込めるのも同じけやき並木を通った共通の思い出が有るからだと思えます。

ご挨拶は何時も初参加の方だけにしてありますが今回は13名でした。

校歌はピアノの演奏付で澤田先輩のリードで何時もの様に1番2番3番を高唱し一次会は終了。二次会は同じホテルのバーで行いましたが予想以上の参加者があり、遅くまで賑やかな談笑が続きました。

今回初めての試みでしたが会費の内から、一人1千円ずつ「成蹊学園創立100周年記念事業募金」に渋谷成蹊会として寄付する事と合計8万円を寄付さ

鈴木茂樹（文・44年）

渋谷成蹊会

2月10日18時半より第35回渋谷成蹊会を渋谷東武ホテルで開



せて頂きました。

来る7月9日（土）に第36回の会を開催します。新たにご参加ご希望の方は野口君（FAX 03-5301-5282）までご連絡下さい。

平成卒の方々の参加が増えて来ました。若い方々の参加を歓迎致します。

池原正夫（政経・36年）

岐阜成蹊会

第8回目となる岐阜成蹊会を平成16年11月27日午後6時よりサフラン（岐阜市内）で開催しました。

参加者は10名強と少なめでしたが、成蹊会本部から国府寺常務理事を迎え、常連メンバーに加えて、転勤族、卒業3年目の若手の新顔参加者もあり、和やか、かつ新鮮な会となりました。会の冒頭、岐阜県出身唯一の旧制成蹊高校卒業生で岐阜成蹊会会長の山田正仁先輩から挨拶

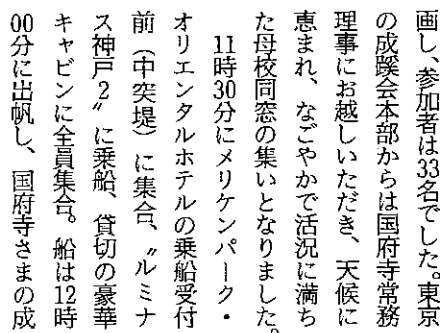
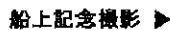


があり、その中で、成蹊学園創立100周年記念事業募金へぜひとも協力を願いたい旨要請がありました。国府寺さんからは、法科大学院、一号館建替え等々と学園の近況報告とともに成蹊会費納入についてのお願いがありました。母校への強い関心から質問も相次ぎました。今回は2年ぶりの開催ということもあり、学生時代の思い出から、近況報告、最近の経済情勢と話題も尽きず、気がつけばあつという間の3時間でした。

後藤総一郎（法・53年）

2005年 春の兵庫成蹊会

快晴の4月9日（土）、兵庫成蹊会を神戸で開催しました。今回は、明石海峡クルーズを計



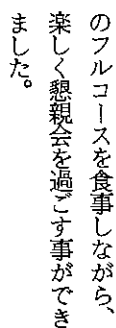
蹊学園近況報告の後、橘さま（1954年卒）の乾杯で懇親会は始まり、記念撮影、全員の自己紹介、そして最後に校歌「お成蹊を斉唱し、14時20分下船散会となりました。名残を惜しむ連中は、さらに2次会「カラオケ」、3次会「夙川の花見」にも繰り出したということです。

今後、成蹊学園の地域ネットワークがさらに広がり、母校同窓の絆が一層強くなることを願ってやみません。なお、関西地区では、秋に、大阪・奈良・和歌山合同成蹊会が大阪で開催される予定です。

古川博康（高・41年）

愛媛成蹊会
(忘年会)

愛媛成蹊会忘年会を、日16年
11月27日（土）に伊予鉄会館に
て、開催を致しました。この日
は5名の方が出席をされました。
今回はいつもよりも少人数にな
り新規の方の参加もありませ
んでした。しかし、少人数でア
ットホームに盛り上がり、洋食



また、H17年1月15日（土）

に愛媛県民文化会館に安倍晋三幹事長代理がご来場されましたので、成蹊同窓生ということで、愛媛成蹊会の佐川会長、菊池理事と私の三人で、ご挨拶に伺いました。

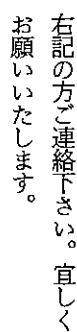
転勤で愛媛にいる方、又は愛媛が地元で県外に転勤されている方で、愛媛成蹊会に参加しようと思う方がいましたら、是非ご参加下さい。

問い合わせ先

愛媛県松山市大可賀2-3-17

TEL 089-952-1111

担当 福崎 太郎



福崎太郎（法・平7年）

長崎成蹊会

平成16年11月27日(土) 長崎

市新地中華街の桃華園に於いて平成16年長崎成蹊会総会・懇親会を開催致しました。(社)成蹊会から高橋章建事務局長(法16回)、成蹊会九州支部からは安永啓一事務局長(工11回)、また福岡成蹊会から高山和彦さん(法8回)、佐賀成蹊会から永倉理一郎さん(経11回)にご

出席いただき、総勢19名の会となりました。

総会では、活動報告、会計報告の承認、また永倉理一郎県南事務局長の転勤に伴う後任人事を決定致しました。

成蹊会事務局長の高橋さんからは、学園の現況について詳しく説明があり、成蹊学園を遠く離れた長崎の地で大変身近に感じることができました。

成蹊会九州支部事務局長の安永さんからは、平成16年10月30日に開催された九州支部総会の報告がありました。

今回の長崎成蹊会総会・懇親会には、高山文夫さん（工11回）、榊田泰史さん（高日6年卒）、松尾光一郎さん（工35回）の3名が初めて出席されました。1955年大学卒業の方から2000年大学卒業の方まで、また太学のみならず小学校卒業の方、高校卒業の方など成蹊学園出身者が幅広く集まった会となりました。これがあるべき成蹊会の集まりのような気がして、大変嬉しく思いました。

引き続き二次会は定番の棕尾敏郎さん（111回）の店、「サニーサイド」で高橋事務局長にもお付き合いただき、夜遅く



まで楽しく過ごしました。

長崎成蹊会では平成17年、6回の会合を予定致しております。この中には、第4回を迎える四大学懇親会（8月開催）も含まれております。長崎成蹊会の隆盛のみならず、四大学の会へも少しづつではありますが発展しつつあります。

今後もう少し多くの方々にご出席いただけるような会にしていきたいと考えております。

葛下明伸（法・53年）

「同窓のつどい」に

ご寄稿ください

字数 五百字（写真付の場合）
八百字（写真無しの場合）
締切 いつでも結構です。

予 告

■ 廣野ゼミ同窓会（広蹊会）

昨年度は開催できませんでした。本年は左記の要領で廣野ゼミ同窓会を開催します。初めての試みとして、大学キャンパス内での開催となります。奮ってご参加ください。

・日時 平成17年6月11日（土）

午後2時～第一部 廣野先生講演

午後3時～第二部 懇親会

・場所 成蹊大学10号館12階ホール

■ 千葉支部総会

・日時 平成17年7月2日（土）

午後3時～7時

（受付開始 午後2時30分）

・場所 千葉市商工会議所14階・第2ホール

（千葉中央ツインビル2号館）

千葉市中央区中央2-15-1

（JR千葉駅、京成千葉駅より徒歩11分）

・講演 講師 津田英彦先生（高5回）

千葉市医師会・前会長

成蹊会千葉支部副支部長

・演題 「呆けずに長生き」

・懇親会 レストラン・ピープル

午後5時～ 同ビル9階

電話 043-222-3140

・会費 10,000円

・事務局 電話 043-247-9541

FAX 043-247-6947

■ 渋谷成蹊会

・日程 平成17年7月9日（土）

・会場 青山ダイヤモンドホール

■ 新潟成蹊会全定時総会

・日程 平成17年7月10日（日）

・会場 行形亭

■ 高校卒業20周年記念同窓会

・日程 平成17年7月23日（土）

・会場 キャピタル東急ホテル

・対象 高校36回（昭和60年3月）卒業生

■ アメフト部創部40周年記念総会

・日程 平成17年10月3日（土）

・会場 成蹊学園

■ 高校卒業30周年記念同窓会

・日程 平成17年10月22日（土）

・会場 吉祥寺第一ホテル

・対象 高校26回（昭和50年3月）卒業生

■ 大学卒業20周年全学部合同同窓会

・日時 平成17年10月29日（土）

午後2時より午後5時まで

・場所 成蹊大学10号館ホール

・対象 昭和60年3月卒業生

（右記以外でも昭和56年4月入学生の方もご参加下さい）

・会費 男性7千円 女性5千円（予定）

※キャンパスツアー

新しくなったキャンパスを当時と対比しながらご案内します。希望者は当日午後1時に大学10号館集合

※ご案内は、案内状を郵送するほか、成蹊会ホームページに掲載します。

・第8回SGCゴルフ大会

・日程 平成17年10月30日（日）

・会場 市原後楽園ゴルフコース（貸し切り）

四人一組の団体戦ですが、個人参加も受け付けます。

申し込みは SGC事務局（西川）まで

FAX 042-546-3388

Mail hiro5141@whim-net.ne.jp

■ 工学部同窓会

今年も例年の通り11月の祭期間中の日曜日に、工学部同窓会の総会を開きます。お誘い合わせ

のうえご参加いただきますようお願い申し上げます。

・日時 平成17年11月20日（日）

午後1時～3時

・場所 成蹊大学第二学生食堂

第14回 観桜武蔵野寮歌祭

平成5年3月27日(日)、旧制武蔵高校で開催された第14回観桜寮歌祭は桜花が散見される程度の観桜となったが、開会の挨拶などから寮歌や校歌についての初めての見解を聞くことができた。

昨秋第12回を数えた「東京校歌祭」は旧制府立中学とその後続の都立新制高校の集まりだが、府立五中を除き全校が新しい校歌に変えている。これは旧校歌が「忠君愛国」に根ざしているためで、これに反して寮歌は「自治自由」を基調にしているため変える必要なく歌い続けられている、という発言



寮歌祭参加者全員の記念撮影

でなるほど、とうなずけるものがあった。そして寮歌の新たな一面を教えられ、その真骨頂を見る思いがした。

赤石定次(旧高・25年)

今後の関連行事開催予定

2005年日本寮歌祭(第45回)

日時 平成17年10月10日(月・体育の日) 12時～17時30分
会場 新宿NSビル地下 NSイベントホール

第15回 嘯風武蔵野寮歌祭

日時 平成17年9月11日(日) 12時～
会場 成蹊大学学生食堂

※お問合せは実行委員の島尾和男・西村 洋(旧高同窓会) 両氏まで

●学園史料館に貴重な手持ち資料のご寄贈を

お手持ちの品(写真、教科書、教材、文集、賞状、各種ユニフォームなど)でご寄贈いただけるものがありましたなら、ご連絡をお願いします。写真は複写の後お返しします。書き込みや汚損も歴史を物語る証しです。現存のままでご寄贈いただければと存じます。来る2012年に迎える学園創立100周年に向けて、今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

成蹊学園 学園史料館

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

(電話) 0422-37-3517 (Fax) 0422-37-3704

Eメール: koho@jim.seikei.ac.jp

前回お届け致しました「成蹊会誌100号」の本文中に誤字がありましたのでお詫びして訂正します。

9頁二段5行目

誤 退場者

正 退任者

9頁表題下及び20頁三段8行目

誤 ご退官

正 ご退任

19頁四段29行目

誤 嫁、婿、孫二人……

正 娘、婿、孫二人……

21頁二段28行目及び23頁10行目

誤 井川舜(政経29年)

正 井川舜(政経29年)

32頁五段21行目

誤 単なる懇親会です……

正 単なる懇親会です……

33頁一段18行目

誤 佐藤忠司(政経・33年)

正 佐野忠司(政経・33年)

63頁一段6行目

誤 其阿弥富美子(女 2)……

正 其阿弥富美子(女 25)……

第82回 枯林忌

枯林忌は、中村春二先生に直接薫陶を受けられた、池袋同窓会をはじめとする諸先輩が、中村先生ご逝去の後墓参と追悼を続けてこられたものを、第



60回枯林忌から学園と成蹊会との共催として引き継ぎ、今年で第82回目を迎えました。

現在では、中村先生のご遺徳を顕彰すると共に、この一年間に物故された成蹊関係者を追悼する会として続いており、枯林忌を通して成蹊教育や建学の精神に触れる機会を得ることのできる貴重な場となっています。

雨模様の中、参加者が染井霊園にある中村先生のお墓にお参りした後、三菱養和会巣鴨スポーツセンターの会議室において、学園関係者、卒業生合わせて約90名のご出席をいただき、追悼会を開催いたしました。

今回の追悼会では、参加者からのスピーチに代えて、直前の2月17日に発売されたばかりの中村春二先生のDVD（紀伊國屋書店評伝シリーズ「学問と情熱」第32巻）を約50分間に亘り視聴しました。新たに発見された大正時代の



ました。

瀧会長は挨拶の中で、今年創立80周年を迎える旧制高校同窓会では、卒業生が学校での体験をもとに、その記憶にある当時の先生方、友人、学生生活を綴られた記念誌の発刊に取り組んでおり、学園史としても大変価値あるものになること、そして記念誌発刊に当り学園からの援助をいただいたことへの御礼が述べられました。そして、学園創立100周年記念事業募金に対する卒業生からの協力につき、引き続きご協力をいただきます。

きたいとお話がありました。最後に、追悼歌と心の力第六章を唱和して閉会となり、坂井屋謹製の枯林忌饅頭を手に散会しました。

次回第83回枯林忌は平成18年2月18日に開催いたします。

視聴後は、岸学園理事長、瀧秀彦成蹊会会長の挨拶、加藤節専務理事の学園の近況報告後、物故者に黙禱を捧げ

ギンナン・クルミ・タケノコ…

校庭の味覚、食卓に

武蔵野市の成蹊高校で毎年開講する料理教室が人気だ。扱う素材は、ギンナン、クルミ、桜、タケノコなど校庭で採れる旬の味覚。「地域に開かれた学校」を目指した試みの一つとして、家庭科スタッフがボランティアで取り組んでいる。

成蹊高

料理教室 地域に好評

料理教室は、家庭科の
栗原澄子教諭の発案で99
年に始まった。

「家庭科の実習では、
地域の保育園や高齢者施
設などのお世話になって

おり、お返しの一つには
ればと考えました」

武蔵野の面影が色濃く
残る同校は四季折々の自
然にも恵まれている。ヨ
モギ、ササシヨウユス、
クチナシの実などが収穫
でき、秋にはギンナンや
クルミの実が路上に降
る。卒業生らが植えてい
ったものも多いという。
同校では、高校2年生で

校内産の食材を使う調理
実習がある。地域の人た
ちに特色ある授業を体験
してもらおうと、「料理
教室」も授業と同様の敵
立を用意した。「料理の
作り方より、楽しんで作
って、喜んで食べてもら
うことが大事」と考え、
「成蹊 料理を楽しむ
会」と名づけた。

「楽しむ会」は年間四
回開かれ、ギンナン、ク
ルミ、タケノコ、桜、梅
を素材に、毎回4〜6品
ほどを作る。栗原教諭が
家庭菜園で育てたスイ
キ、ニガウリなども使う
ので、参加費は年間2千
円と格安。家庭科スタッ
フ3人が日曜・祝日に手
弁並で運営している。

地域のお年寄りたちを
中心に、毎年広い年代の
参加者が集まる。「結婚
したので、料理を習いに
母親と来ました」という
卒業生もいた。

基本的なメニューは毎
年同じだが、次回は参加
したいという声が多いと
いう。新しい人に参加し
てもらうため、1年で
「卒業」となる。
現在6回生を募集して
いる。初回は23日、素
材はギンナンとクルミ。
ギンナンの炊き込みご
飯、クルミのあめ炊き、
クルミを使ったチヨコレ
ートケーキなどを作る。
以降の日程は来年3月26
日、5月7日、8月10日。
各回とも午前10時半〜
午後1時。先着32人。締
め切りは17日。問い合わせは、栗原教諭（042
2・37・3000）へ。



校内には竹林も。「5月の回は、掘り立て
のタケノコが素材」と話す栗原澄子教諭

栗原澄子氏

成蹊中学・高等学校教諭（家庭科）

朝日新聞朝刊

2004年（平成16年）12月9日付より

産経新聞朝刊

2004年（平成16年）12月14日付より

櫻井木

産経新聞朝刊

2004年（平成16年）12月14日付より

写真報道局 大西正樹

東京 タウン ショット

韓国チームに火を付けた「冬のソナタ」の
場面をほうふつさせる並木道。吉祥寺の成蹊学
園（武蔵野市）では、メタセコイヤではなく、
百二十四本のケヤキが六百
の間に大きなトンネルを作っ
ていた。

黄色に染まった葉々、師走の
木漏れ日のコントラストが美し

（写真報道局 大西正樹）



い。この並木、豊饒だけでなく、新緑や落ち葉
が風に吹かれる音が「日本の音風景」に選ばれ
ている。

八十年前、「成長が早い」との理由で植えら
れたケヤキは、期待通りに伸び続け今では高さ
十二メートル以上に。まっすぐ雄大にそびえ、学生を
見守っている。

私の履歴書

③

石坂 公成

誰でも子供のころによく遊んだ友達を思い出すものだが、私が小さいころによく遊んだ相手は別当さんだった。別当さんとは階級が高い軍人の身の回りの世話を

する人のことであり、徳島と弘前では父についていた。父は別当さんと一

少年時代

緒に馬に乗って毎朝司令部に行き、父を送った後別当さんが馬を連れて戻ってくる。別当さん夫婦の住居は私たちが住んでいた屋敷の一角にあったので、私は馬に乗せてもらったりと一緒に遊んでいた。

小学校の入学は弘前であった。家の前が公園だったので冬は毎日スキーをして遊んでいた。一年がたつて父が予備

役になったので東京に戻って渋谷の小学校へ。その後、父が自宅を建てたので吉祥寺（東京都武蔵野市）の小学校に転校した。四年生になった時に今度は母の意見でカソリ

遊び相手は別当さん

旧制成蹊高で自立を学ぶ

ツク系の小学校に移ったから、毎年学校が変わっていたのである。中学は府立二中（現都立立川高校）に進んだ。同じ学年

に後に文化庁長官を務めた作家の三浦朱門君やロッキード事件の裁判長であった岡田光了君などがいた。同級生だった岡田君は秀才であった。中学校時代のことでも思い出すのは行軍である。立

川市から山梨県の甲府市まで約百キロを二日ばかりで歩くのである。旅館に泊まるなんて気の利いたことはしない。山中での野宿である。運動は嫌いではなかったので行軍は結構楽しいものであった。

旧制中学は五年制だった。私は三年が終わるまではまるで勉強をしなかったのだが、一念発起して四年生で高校受

たが、理科ことに生物学に興味をもっていたので旧制高校の理科に行きたいと思い、当時人気のあった浦和高校（現埼玉大学）を受験することに決めた。父は軍人だったが陸軍士官学校や海軍兵学校への進学を勧めなかった。どうやら軍隊をあまり好きではなかったようだ。

旧制高校で学んだのは自由と責任である。高校生は十代の若造だが世間は一人前の大人と見てくれた。勉強も遊びもがむしゃらにやる。自由はあるが、自分のしたことには責任をもつことが求められた。一年生は寮生活であり、ここで親からの自立と自分を律することとを学んだ。当時の高校生がしなければなら



成蹊高時代

ないことは、自分の将来の方針を自分で決めることとを学んだ。どの大学に進むかは二の次であった。

一つ言ったことは「成蹊高校（現成蹊大学）も受けるように」ということだった。成蹊高校は吉祥寺にあり自宅から通えたのである。受験日も浦和高校と重ならないから受けたところ合格してしまっ

石坂公成氏（旧高・19年）

日本経済新聞朝刊 2005年（平成17年）3月3日付より

黒柳徹子の少女期の回想『窓ぎわのトットちゃん』は、昭和五十六年（一九八一年）に発行されてから、三年後に文庫版も含め、今日まで七百四十万部以上のベストセラーとなっている。映画化、テレビ化、ミュージカル化も行われ、英語、アラビア語ほか各国語にも訳されている。この持続した人気は、どこからくるのだろうか。

窓ぎわのトットちゃん (1981年)

ベストセラーで昭和を読む

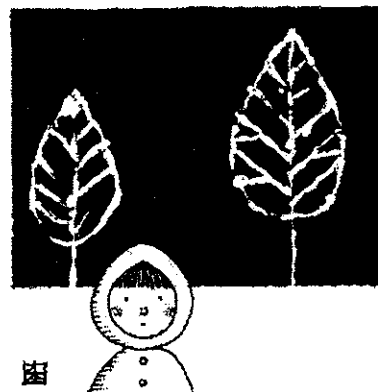
文芸評論家 紀田 順一郎

「と、彼女はさげんだ。それは、知っている唯一の英語だった。彼女がその外国人を好きだと思っただのは、次の瞬間、彼が腰をかめると彼女の手をとり、とても大切な人のように見てから、「サンキュー」といった時だった。なぜなら、それは彼女を子ども扱いではなく、ちゃんとした大人の女の人のように扱ってくれたからだ。「そして、その男の人が、腰をかめたとき、それは、彼女

が心の底から、その人の優しさを感じるようなそんな姿だった。そして、その人のうしろには、真っ白な世界がどこまでも、どこまでも続いていた」

これはトットちゃんを迎える「トモエ学園」の校長、小林宗作の教育にも通じている。天衣無縫ゆえに「授業の迷惑になる」問題児として、地域

の学校から退学させられてきた彼女を、小林は校長室に迎えると、身近に椅子を引き寄せ、同じ目線で話して「うん」と語りかける。彼女はせきを切ったように、いま乗ってきた電車のことから、愛犬のこと、はさみを口の中に入れてチョキチョキやること、はなが出たときいつまでもズルズル



画・穂積 和夫

促し、立ち上がると彼女の頭に大きくて暖かい手を置く。『じゃ、これで、君はこの学校の生徒だよ』という。彼女は「生まれて初めて、本当に好

きな人にあつたような気がした」。

本書を読んで考えることは、子どもには何を教えるべきか、という。彼女が「生まれて初めて、本当に好

きを見出せるようにすべきだ、それこそが教育ではないか、ということだ。

戦前から戦中にかけて、わずか八年間だけ存在したトモエ学園は、群馬県出身の教育家小林宗作により、東京自由が丘に私費で建設された。本書のあとがきにもふれているが、小林は東京音楽学校を卒業後、大正自由教育の発祥校、成蹊小学校の教師となった。人間の個性を無視する、画一的な教育を嫌う精神が、かつての日本にも存在したのだ。戦後教育の行き詰まりが論議されはじめた八〇年代に、本書が出現したのは偶然ではあるまい。

毎月最終木曜日に掲載します。

個の尊重が教育の本質

平成十七年春の叙勲受章者（敬称略・判明分）

旭日双光章

工藤久一郎（政経4回）

（本会の調べに漏れがある場合には成蹊会事務局へお知らせ頂ければ幸いです）

日本経済新聞夕刊 2005年（平成17年）3月31日付より

小林宗作氏については成蹊会誌第89号「成蹊幼稚園？園長奮戦記」にも関連記事があります。

◎文藝春秋「同窓会交歓」に高校同窓生が掲載

5月10日発売の「文藝春秋の同窓会交歓」記事に次の35年〜38年の成蹊高等学校同窓生7名が掲載されました。

写真・本文記事は次号の成蹊会誌に掲載予定です。

江田陳隆氏 岡本雅晴氏 小西智之氏 篠岡方長氏
菅原孝氏 村上芳雄氏 両角慶久氏

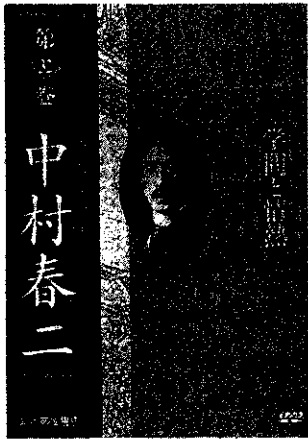
DVDで教育の情熱再び

中村春二 大正自由教育の旗手

紀伊國屋書店

紀伊國屋書店は、評伝シリーズDVD「学問と情熱第32巻・中村春二」をこのほど発売した。成蹊学園創立者の中村春二の教育理念を丹念にひもとく渾身の映像評伝だ。

28歳で学生塾を開設、次々と学校を創立し、48歳の若さで世を去った春二の生い立ちと思想、努力と情熱を、新たに発見された記録フィルムを交えながら、清らかな音楽



とナレーションとともに振り返っていく。デモクラシーが声高に叫ばれ、「自由」「民本」という言葉が市民に根づき始めた大正時代。「大正自由教育」と称された運動の中で多くの学校が生まれた。その中で、教育、人間教育を目指し米の新教育理論だけなく、日本的な儒教教育に基づくまったく新しい教育理念を掲げ、大正自由教育の先駆者となった教育者が中村春二。生徒への教育だけでなく、教師の修養を重視し、師弟の心が直接ふれあう人格教育が目指された。その教育理念は学内だけでなくとまらず、広く浸透していく。彼の理念は、数多くの教育問題を抱えている現在にも、大きな示唆を与えるに違いない。監修は柴田義松東京大学名誉教授。価格は団体向け2万6250円、個人向け3150円。問い合わせは同社映像情報部/TEL03(5469)5917。

教育新聞 2005年(平成17年)3月17日付より

旧制成蹊高旅行部

「覆刻＊記録・会報」を出版

大正末期から昭和初期

約23年の活動まとめる

大正末期から昭和初期の近代登山の幕開け期に、谷川岳(群馬、新潟県境)登山や同岳ふもとの山小屋建設などで活動した旧制成蹊高旅行部(現成蹊大山岳部(武蔵野市))の記録と、そのOB会「成蹊高登山部」の会報をまとめた書籍「覆刻＊記録・会報」がこのほど完成、出版された。刊行にあたった刊行会代表の堀口勝弘さん(60)群馬県渋川市南町に、馬場山(登山)の死亡事故や部員数減少などで約4年前に休部状態になった同山岳部を応援しようと、有志OB

草創期登山の貴重な資料に



「覆刻＊記録・会報」を手にする刊行会代表の堀口勝弘さん

が企画。散逸していた1929〜47(昭和4〜22)年に発行された記録と会報計11冊を4年近くかけて集め、1冊の本にまとめた。200部発行し、同県内、都内の図書館や山岳会などに寄贈するという。

記録と会報には、25(大正14)年から約23年間の活動内容がまとめられ、谷川岳を中心とした草創期登山の貴重な資料になっている。また、現存する非常利山小屋では最古級とされる山小屋「虹ヶ瀬」を同旅行部の学生が計画し、学校と交渉しながら建設の様子も掲載され、当時の学生の熱気が伝わってくる。

堀口さんは「学校のスポンサーであった三葉の岩崎小弥太氏と直談判して、建設にこぎ着けたバイタリティーに感銘を受ける。広く読まれて山への思いを感じ取ってもらえればうれし」と話している。

【山田泰蔵】

堀口勝弘氏

毎日新聞朝刊 2004年(平成16年)11月15日付より

人求曜日



日本弁護士連合会会長

梶谷剛

井護士だった父の言葉に影響を受けた
井護士だった父から、「井護士の
薬房、依頼者に最善を尽くすのは
筋だけれども、井護士の公益性と
いう面から井護士会活動は基本的

私の歴史と重なる活動は司法制度改革の司立法が実現します。外国弁護士に認められながらも、立って争闘できるか争点となり、法務省に御覧も頂きたいです。日弁連会長は28年9月には、「司法制度改革」の作成に関与しました。法曹三者のうち、まず弁護士制度から緩くするという思いがあります。

司法制度改革の歴史と
重なる弁護士会活動

全国2万1千人の弁護士のうちとして司法制度改革に取り組む。市民が重大事件の刑事裁判の審理に加わる「裁判員制度」がスタートするほど、今後日本の司法制度は大きく変わる。日本弁護士連合会会長の橋本寿とに話を聞いた。

親合 関(か)にたにご)さん
1936年、東京誕生。59年、成国大
学経済学部経済学卒。67年、井
上英士賞(1989)、第一東洋新聞
奨励入賞。85年、日本評論家協会
第20期常務理事。88年、日経連評議員。
2004年4月から日経連会長。

◎お問い合わせは、
住友信託銀行株式会社国際課係
TEL 03-3547-5057から下さい
www.yomiuri.co.jp

来週3月13日付週刊に掲載さんの
オアタイム編を掲載します

動を行はせしめ、
日南連の安東主朝は、牛馬を放
日南連の牛の遺文、牛馬を放
をせうしと申す。牛馬
の三頭を殺さぬと信譽が故言
飯に掛け置き、煮るべしと
かてめし、彼朝の壬子月、
すといふ蘇武等。其日南連の口
を大恥にして、牛馬をてへんす
すんだんです。(註)

日弁連には10以上の委員が
あります。弁護士は各地の弁護
士会に入会すると同時に日弁連に
も登録しなければなりません。強
制加入団体ですから、あらゆる立場、
いろいろな考えを持つ人がいます。
こうした人々が基本的人権の擁護と
社会正義の実現のために幅広い活

に公法性がある、といふ基本が大切
です。

弁護士の「公益性」を世の中の法的ニーズにこたえていきます。

梶谷 剛氏 (政経・34年)

読売新聞朝刊 2005年(平成17年) 3月6日付より

日本弁護士連合会会長

剛谷 梶



梶谷 剛(かじたに・ごう)さん
写真は愛犬チコと一構に。
因産5段級、年賦3枚。このほか、貴連・読書も愛した。

応募要項

①募集期間：各社では、
東京本社（本社）及び支店・営業所
にて、毎月第1土曜日の午後9時30分から午後6時
まで受付。

②応募方法：
<http://job.yomiuri.co.jp/>

子といふ。強と弱に接して音
 でなす。あゝ動物が本當に好き
 だ。猪一匹、庭で養つて置くと
 動物がたゞとて養に慣るゝが
 人です。猪に出合ふことが楽
 しんでキツトウをキツトウに
 入って散歩をしています。
 金持士は養ふが、良事、酒事、
 井田園藝に出ず、また厚生社会を
 世話する仕事が多いですが、ど
 んな仕事でも人間として危險感
 を得ること何れも大切です。
 井田士は低價に人手の数が分か
 らなければ儲けない。ところが
 聞かぬだけの二通りになつてい
 と相手に本當に理解して欲しい
 るのか不安になつてしまつてい
 ねばその話を理解しなからぬやけ
 になりまふ。そのために、日
 づから、各方面に関心興味を持
 つことが必要だと思ひます。(談)

家には薪炭がたぐいせん！
燃ゆるのが楽しみ

[illegible]

結構な頃頭に達して音楽を聴く時間と始まります。30分から1時間ほどです。音楽は中学校のころからずっと聴いています。中学校時代は毎朝、早く学校から家に帰るといって音楽を聴きたがっていました。聞いていらないのは学生生活で一番です。音楽が好きな人々には高校、大学時代に夢を言っていたことある時代です。父がハーバード会社の顧問、弁護士をしていた縁で、今も東京と音楽界のつも近くにある事業を営み、また音楽家やタレント、タレントを導くことに力を入れている所までです。

産で、中でもエルネスト・ロドリゴとよく通じます。19世紀最大の作曲者バロカ・ガリが「現代最良の

鎌田の尊厳に敬服して
ケムシを喰べ

日本井欄土連名寄合衆の撰
 蘭さんのは味はうまい音楽
 鑑賞。毎朝音楽を聴いて頂くと
 心を癒すことができますのが日曜になつ
 ている。

人間の栄華、悲哀を感じる
エルネスト・ブローホの
作品を長年聴いています。

成蹊会学術教育助成事業 研究助成報告の要旨

不定方程式とそれに関連する初等整教論の問題

特に、指数型不定方程式 $a^x - b^y = c$ の研究

工学部 須藤 真樹

現在研究しているのは指数型の不定方程式のなかで、ピライの予想といわれるものである。

a, b を2以上の整数、 c を自然数とするとき x, y についての不定方程式 $a^x - b^y = c$: ①は11個の例外を除いて高々1つしか正整数解を持たないというものである。最近ベネットは c が1以上100以下の場合にこの予想が正しいことを確かめた。このベネットの方法により c の上限の100をどこまで大きくすることができかを調べ、300まではピライの予想が正しいことを確かめた。計算機を使うところでベネットはメイプルというソフトを使っているために、計算がど

う行われているか分からない。

筆者はソフトErgoでプログラムした。その際、①が2つ解をもつとすると小さい解は a, b, c の間に関係を定義し、そのために調べる場合が減り、計算時間を7時間程度にすることができた。

異文化理解としての翻訳文化論

文学部 三浦 國泰

私はここ数年来、解釈学の立場から、「異文化理解としての翻訳文化論」の問題に関して、研究を積み重ねてきました。従来、日本における翻訳の役割は、外国の文献をいかにして日本に紹介するかに重点がありました。しかし日本の文学・思想・文化がいかに外国語に翻訳されているかを知ること、日本がどのようなかを知ること、外国に理解（あるいは誤解）されているかを知る重要な

手がかりになります。またある意味では、外国における日本文化受容のあり方から、日本人が自国の文化について見落としていた観点を学ぶことにもなります。つまり文化交流には、一方通行的な文化受容ではなく、相互作用的な文化受容が求められます。こうした広い意味での解釈学の地平における「翻訳論」は、拙著『ヘルメスの変容と文学的解釈学の展開—ヘルメネウティク・クリネイン・アナムネーシス—』（風間書房、2005年）にも生かされております。他者あるいは異文化を理解し、異文化と対話するために不可欠な「翻訳」の問題を「解釈学の地平」において論ずる理由としては、解釈学の基本構造が、通時的には「過去と現在の対話」、共時的には「異文化間の対話」にあると考えられるからです。本研究においては、観点を和辻哲郎の『風土』に絞り、実例として『風土』のドイツ語翻訳を取り上げました。和辻の独自の思想が、いかに外国語に翻訳されているのか、その翻訳可能性と不可能性を確認することは、外国における和辻受容を見る上で、基本的な作業になります。

そこで確認できたことは、和辻の思想は、「自然」対「人間」、「我」対「汝」といった西洋の基本的思考方法である二項対立的・境界的思考から免れているにもかかわらず、それに置き換わるものとしての「間柄としての我々」といった特殊日本的な概念を用いているために、必ずしも和辻の意図になつたドイツ語訳にはなっていない、ということでした。他方においては、従来のには、和辻の思想をあまりにも日本の「境界性」に閉じこめていた解釈に対して、なかなかポストモダンの視点のもとに、その閉ざされた「境界性」を脱する方向性が、「脱境界性」として聞かれていることも確認されました。

本研究の成果は、『風土性と脱境界—『風土』の文化解釈学的考察—』として、『国際文化研究の現在 境界・他者・アイデンティティ』（成蹊大学文学部国際文化学科編、柏書房、2005年）において発表されております。

八丈島神湊漁港で確認された多毛綱ツバサゴカイ科 Mesochaeopteris sp. の付着生活型集団の分布

中学・高校 荒井 靖志

海産の環形動物門多毛綱ツバサゴカイ科に属する、八丈島産個体集団 Mesochaeopteris sp. は、世界的にも八丈島固有種または日本本州中部以南の比較的底質攪乱の弱い砂質底に生息する Mesochaeopteris sp. 1 (Okuda, 1935) の亜種の可能性も示唆されている（荒井 2003）。両種は、形態学的な差が認められないにもかかわらず生態学的特性が異なるため、この両集団を比較することは、海産底生無脊椎動物の ecological niche への進化適応論を構築する上で重要と考えられた。そこで本研究では、Mesochaeopteris 属の生活場所への適応とコローニ形成の意義を知るための第一歩として、八丈島産個体集団コローニの分布を明らかにすることを目的とした。

調査の結果、対象種は、水深

1.5 mから2.5 mの砂礫底の岩上、岩などの基質と堆積物の境界面、足糸を堆積物中に張る二枚貝群居域内に出現していることがわかった。なかでも、岩上にコロニーを形成している場合が圧倒的に多く、全体の約70%であった。本種は他の地域では全く出現が確認できなかった。コロニーの面積も岩上形成のものが大きいことが明らかとなった。コロニーの平均面積は、約150 cm²となり、駿河湾産個体集団の約600 cm²よりかなり小型であった。さらに、岩上に砂泥が再堆積しない場所では生息不可と考えられた。したがって、物理的攪乱が強い地域のなかでも、基質や底質が安定した環境にコロニーを形成していることが明らかとなった。八丈島産個体集団は他地域個体集団と比較し、全く生息場所を異にすると結論された。

日本列島におけるミミズの種の分布による動物地理的分布境界線の研究

中学・高校 石塚小太郎

日本列島における動物の地理的分布の境界線としては九州の種子島から琉球列島間に三宅線（昆虫）、渡瀬線（哺乳類・爬虫類・両生類）、峰須賀線（鳥類）等がある。本研究は土壌動物を代表する貧毛類（ミミズ）を指標として土壌動物地理的分布境界線の解明の研究に着手したのである。本年度調査は前年度の成果はまだまだ何回かの調査を必要とするが、一応の成果がありましたので報告いたします。

ミミズの分布で北海道から九州大隅・薩摩半島までに普通に分布する5種に着目し、その5種の分布を種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島、徳之島で調査した。その結果は、種子島で4種、屋久島で3種、口永良部島で2種、奄美大島と徳之島で0種という結果となった。したがって、奄美大島と屋久島・口永良部島でその土壌動物地理的分布の境界線があると判断できるが調査の回数やさらに琉球列島、トカラ列島での今後の調査を必要とする。

近代中国のメディアに見る「植民地近代性」の展開

中学・高校 久保田善文

私が今年度中に発表した論文、「杭州白話報」のなかの「我々」と「彼ら」——近代中国における「植民地主義」の契機（『歴史学研究』790号、2004年）および、口頭報告「晚清白話報的「他者化」和「現代性」：透過「被觀看」觀看」的中国」（日訳は「清末白話報の「他者化」と「近代性」：「見られる」見る」中国を通じて」、「第1回韓国中国近現代史研究者交流会」2005年1月8・9日、延世大学、ソウル）は成蹊会の助成金に負うところが大きい。二つの論考はいずれも、次のようなことを論じている。

すなわち、私たちは、「植民地主義の対象としての中国」が同時に「植民地主義の主体としての中国」でもあるという両義性を前提としなければならないし、西洋諸国や日本がそうであったように、近代中国においても、オリエンタリズム、人種主義という意味での「近代性」の共有

が国民創出の段階で重要な課題となっていたことを認めなければならないのである。

コーパスの授業への活用の仕方

中学・高校 菅野 豊

コーパスとは、口語文語を問わず、実際に使用された言語を大量に集めたデータベースのことである。その特徴を生かし、授業での次のような利用法が考えられる。第1に使用される語の頻度が簡単に調べられるので、より実用的で目的に合った語彙を学習させることができる。第2にコンコードダンス（コーパスに集められた文章）は実際に使用されたもので、生きた英語の用例集として、生徒に文語・口語別のコーパスから文例を示し、場面ごとの表現や言い回しの違いを理解させることができる。最後に、検索語をソートすることで、語同士の結びつきの強さ（コロケーション）が容易にわかるので、その結びつきを知りより自然な英語（外国語）を習得することができる。

ただし、コーパスは単なる用

例集であり、コーパス上で示される語句の使用法が必ず文法的に正しいとの保証がない。規範文法に則ったもののなか、社会的に容認された使われ方なのかを判断する必要がある。

教材としてのDVDの活用方法

中学・高校 丹澤 祥晃

私は英語に限らず言語習得に必要な不可欠かつ最も重要なものは音声であると確信している。私も授業の活動の一つとして必ず英語の歌を取り入れてきたが、今年は映画の一場面の映像とスクリプトを利用してキー・センテンスの定着を図ることをテーマに研究した。音声だけでなく映像があることでより言語活動に具体性ができる。例えば、強調構文が実際のどのような状況や場面で用いられるかを、インパクトを持たせて紹介するために私は「The Lord Of The Rings」の一場面を用いた。この場面の生徒に対する提示に関してはDVDを用いた。DVDを用いれば、頭出しの時間も要さず、授業時間内でも繰り返し生徒に練

習させることが可能である。また、様々な映画などの一場面を体系的にDVD-Rにまとめれば英語学習の活性化に役立つであろう。今後も言語学習教材としてのDVDの可能性はまだまだ広がりをみせている。

映画に出てくる文法・慣用表現実例集 —もう一度英語をやりたい大人たちへ(第2回)—

中学・高校 吉田 昭彦

大好きな映画のDVD1本を選び、最低1年間見続けることをお勧めします。台詞が自然に出てくるようになれば本物です。今回は現在完了が如何に日常的に使われるかの例をあげます。(かっ)内は拙訳

Times have changed.
(The Godfather. 時代は変わったのだ)

Oh, you have already met Rick. (Casablanca. おや、もうリックに会ったのですか)

You've made a mistake. Let me go. (Roman Holiday. 人違いよ。放して)

You haven't told me every-

thing. (No Way Out 「追いつめられて」まだ僕に話していないことがあるね。)

How long have you been married? (Casablanca. 結婚してどのくらいになる?)

So have you liked anybody? (The Bodyguard. え誰かのことを好きになったことがあるの?)

Haven't you ever seen anybody in a ship before? (The Graduate. 女の下着姿を一度も見たことがないの?)

箸の持ち方の実態把握とその指導

小学校 高柴 光男

1) テーマについての問題意識
子どもの生活行動を観察して、手指の操作性を問題視するようになったのは、1970年代後半からである。「鉛筆がナイフで削れない」「靴紐を結ぶのが下手になった」「折り紙を折れない」等々、器用さが育っていないという事が、教育現場で指摘されるようになった。もっとも、懸念されたのが、給食時における箸の持ち方であっ

た。

当時、本校の給食の献立では和食が結構多かった。その和食の時に、きちんとした箸の持ち方が出来ないものが少なくない子どもに見られるようになったのであった。

以来、4分の1世紀を過ぎ、箸の持ち方は、なかなか改善されない。むしろ、悪化の傾向をたどっていると断定した方がいいだろう。

今回の成蹊会研究助成では、こういう問題意識で、『給食時における箸の持ち方』をテーマにさせていただいた。

2) 箸が出てくる食卓

半世紀前、茨城県南部における私の子ども時代は、「お膳」の世界だった。正月になると、通常の箸ではなくて、「祝箸」として、柳の小枝を削った「削り箸」が登場した。元旦から3日間、朝のお節料理を戴く箸は、なぜか、柳の小枝であった。祖母は、「柳は生命力が強くて、挿し木しても根づきやすいし、それにあやかって丈夫な1年でありますように」という願いが、「祝箸」の「削り箸」に込められている、と言っていた。多分、その説が最も

妥当なのかも知れない。立春の後、とにかく早く芽吹く柳は、正月には欠かせない祝箸であった。

つい最近まで、地方によって、弁当などの箸として、くぬぎや黒文字の小枝が用いられていたから、正月早々には、柳の小枝を削った「削り箸」が大切な祈願の意味があったかも知れない。仔細は、今もって定かではない。

「削り箸」についての雑煮のお餅を落とすのは大変であったが、私は、子どもであっても、自分の箸や茶碗を含めて、「お膳」に責任を持つようにしつけられた。もちろん、箸の持ち方が悪ければ、祖母や父母から、「もっと、上を持ちなさい」とか「なめるようにしなさい」とかというように指摘された。小さい頃は、「柳の小枝」を削った「削り箸」が、扱いにくくて大変であったが、新鮮な若木の香りが、頭の奥底に残っている。粗食ではあったが、家族で、銘々が「お膳」に向かった光景は、幼少時の思い出となって鮮明に残っている。その「お膳」が食卓になり、家族が食卓を囲むようになったのは、中学生に

なってからであった。もちろん、食卓になっても、1人ひとりに「銘々箸」があった。

私が中学生時代に使用していた箸の記憶は、私にはない。なぜか、父の箸が、黒くて太めであったことが印象深く焼きついている。

面白く会話することよりも、とにかく黙々と食べる食卓だったが、家庭にとって食卓は、どういう意味があるのだろうか。

作家の高村薫さんは、「心身を満たす食事とは、家族とともにある食卓にある」(1999年9月12日、「毎日新聞」「時代の風」と書かれた。前段では1人で食事をしている子どもたちが増えている状況を憂えて、「孤食」というとんでもない言葉が流行っていることを憤り、其の1人食事の弊害が、後々までも人間性をそこなう面を想定して、次のように書かれていた。「人は晩年になると、幼少時代の食卓の光景が懐かしくなり、原風景になるのではないか」と。高村薫さんにしたがって、食卓を意味付けると、そこは心身を満たす食事の場であり、家族とともにふれあいのある場である。また、幼い時の心象になる

ところでもある、と。

したがって、食卓に出てくる「箸」も、原風景を形作る大切な役割を果たしている、私は思う。

「箸の持ち方」をテーマにしているのに、『柳の小枝』の「削り箸」に執着したのも、私の原風景の心象を彩っているからであらうと思う。

子どもの感情や情緒の育ちを配慮すると、食卓やそこに出てくる「銘々箸」には、もつと配慮しなければならぬのではないかと、とつくづく思う。昨今である。

3 「箸」の機能と文化

ふだん、日常的に使用している「箸」は、何の変わりばえもない2本の棒である。フォークやスプーン・ナイフと違って、目的に応じて使用するという点ではない。ナイフは、「切る・離す」という用い方では理にかなっているが、運ぶ機能はない。それが箸の場合には、操作を要するが「切り離れた」後で、運ぶことができる。フォークは、パスタをまいたり、肉をはなして、食すのには機能的である。けれども、豆をつまんだり、挟んだりすることになる、箸の方

がすぐれている。

これらの「箸」の機能をまとめてみると、「きりはなす」「つまむ」「はさみきる」「すくいあげる」「まく」「ひきはなす」等と列挙できる。箸を用いると、小骨をとりながら焼き魚をいただけるし、固いご飯でも挟みあげて運べる。小豆のような豆類も、挟んで食すことが可能である。時には、お椀のなかから「豆腐」をすくいあげることもできる。誠に「箸」は、便利であり応用が利く。

こういう箸を用いる文化は、日本以外に中国や朝鮮、ベトナムにも見られる。朝鮮料理では、箸と共に匙も用いる。箸はお惣菜をとるときに用いるだけで、ご飯や汁物は、匙を用いる。コップや湯呑み茶碗のようなもの以外の食器には、口をつけないのが日本の食習慣との違いであり特徴である。箸だけを用いて食事するのは、日本とベトナムであろうか。

だから、箸を用いることを、私たちは固有の文化の特徴として把握し、和食を戴く大切なマナーとして子どもたちに伝えていかなければならない。

私は、箸の持っているシンプ

ルさと、細やかな気遣いを持つて作られた質感が好みである。手にした感触だけで豊饒とした人間的なぬくもりが伝わってくるような気がする。私たちは、

こういう箸の文化性を大切にしたい。次の世代に分ち伝えているだけの市民でありたいと思う。

4 「箸」の持ち方

箸の持ち方は、大きく分けると、「伝統型」と「鉛筆型」、「その他の型」に分類できる。伝統的な箸の持ち方は、手前側になる固定箸を親指と人差し指の間に保ち、細い先の方の手前を薬指の爪の上にのせるようにして固定する。上部になるもう一本の箸は、親指と人差し指、中指の3本の指で支えるようにすることがポイントである。小指は、自然に薬指を補強する役割を果たす。

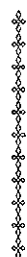
「鉛筆型」は、2本の箸を一緒にしてまとめて持つ。手前側の固定箸を親指と中指で固定して、もう1本の箸を親指と人差し指で動かすようにする。「その他の型」は、「鉛筆型」の変形であり、固定箸を中指で支える型や、小指と薬指だけで固定箸を保つ型、わしづかみ型等と、多様である。

良くない。けれども、箸も持ち方は、断然よくない、というのが、私の結論である。

今、「食育」という言葉が、市民権を得て、一人歩きしている。「食育」は、子どもたちの「品性の陶冶」にも欠かせない。とりわけ、「伝統型」の箸の持ち方は、ぜひ復活させたいと思う。

給食でも、「心を育てる」「人間を育てる」という教育的な意義を認識するから、これまでも続けられたし、今後も続けていくという意気込みがあるので、はなかるうか。

「伝統型」の箸の持ち方は、日本人としての欠かせないマナー教育でもある。



読解力を確かにする教材開発

小学校 酒井 務

小学校の教科書編集に携わって、二十年を数える。

文科省の指針に沿って、検定を受けなければならない教科書編集は、編集委員、教科書会、文科省の間で、さまざまにズレがあり、難しい仕事である。

衆知の通り、「ゆとり教育」の下、ページ数三割削減に従い現行の教科書は薄っぺらになった。殊に、「総合的学習」が掲げられ、ややもすると「活動」のための教材となっている。

確かな読解力の標榜はその価値を下げ、昨今の指摘の通り、学力の低下を遍く招いている。私学成蹊の児童には、何といても、高い読解力を育んでいきたいと考え、今回の助成を受けて、教科書に準ずる、いや優る教材の選定、作成を行った。

読解力を高める文学文教材、説明文教材は、時流に流されないテーマで、かつ、しっかりと構成された文章を発掘、選定をし、指導例を整えた。また、文法教材は、小学生にも無理なく段階をふんで学習できる、系統立てた教材を作成した。

教科の中のコンピュータ・リテラシー

小学校 寺井 久代

平成一四年度から三年生の「こみち科」の中に情報教育のカリキュラムとして、コンピュータの活用が組み込まれました。

また、平成一七年度は、や「Japan計画の最終年度にあたります。

これは、「普通教室にもLANに接続されたコンピュータを二台整備すること。」を目標とした政府の強い施策です。

二十一世紀を生きていく子どもたちを育てるために「J」(情報技術)を日常的に活用し、より分かりやすい授業を行うことが、全ての教師に向けられた課題となりました。教育用総合ソフトには各教科に対応できる内容のものが開発されています。

担当学年の三年生の児童には、「触れて、慣れて、親しみましょう。」の一步からソフトを使って新聞の枠作りから始めました。

学ぶプロセスの中にコンピュータ・リテラシー(コンピュータを使いこなす能力)を埋め込み、それが、授業内容や方法を考える起爆剤になるようにこれから研究したいと思っています。

授業における「コミュニケーション」

小学校 鈴木 宏明

子どもが集団になって生活し、授業を創るのが学校であるならば、子どもたちがどのようにコミュニケーションをとり、関係性を作っていくのか研究する事は、教師にとって重要なテーマになる。情報化がすすむ中、身の人間同士のコミュニケーションをどのように援助して育てていくかは、とくに学校現場では大きな課題だととらえている。担当している「こみち科」の授業場面において、授業の課題や運営の仕方が子どものコミュニケーション形成にどのような影響を与えるかを研究し、一部を10月の教育心理学会の総会でも発表させていただいた。授業記録を研究者とやり取りしながら分析し、教師の授業計画との関連、子どもの意識とのズレを明確にするというものである。今回も多く示唆が得られたので、今後も授業でどのように子どものコミュニケーションを育てていくかについては継続して研究したい。

スポーツ振興事業 スポーツ振興助成金贈呈報告

小学校	中・高校	大 学 体 育 会							団 体 名	金 額	主 な 使 途
(瞬発力と持久力)	サッカー部 硬式野球部 馬術部	軟式庭球部	アーチェリー部	少林寺拳法部	ラクロス部男子	硬式野球部	ラクロス部女子	準硬式野球部	馬術部	15万円	装蹄費・連盟費
15万円	合計30万円	5万円	5万円	7万円	10万円	10万円	11万円	12万円	選手登録費・用具類		
ビデオ撮影用 プロジェクター	ワンタッチテント ボールマシ 馬具一式	リーグ戦・学生選手 権大会参加費	用具類	二重胴代	ボール代・防具代	審判用具類	メンタルコーチ代				

●ここに謹んで哀悼の意を表します●

物故会員

(平成16年11月2日〜平成17年4月30日迄にご連絡のあった方を掲載いたしました。)
(ご逝去の年月日をご不詳の方については、お名前だけを列挙いたしました。)

阿部 齋(特別賞)平成16年9月12日	藤浦陽一郎(法)5)平成16年4月14日	石河 太郎(法)25)平成16年10月26日	伊臣 眞子(女)12)平成17年3月6日
清水 恒子(特別賞)平成16年10月22日	前田 義治(政経18)平成16年4月21日	阿部 善弥(旧高8)平成16年11月2日	杉山 修一(旧高23)平成17年3月6日
奥住 正彦(特別賞)平成17年3月15日	志田 穆彦(旧高23)平成16年4月27日	石川 正人(旧高21)平成16年11月9日	竹澤 勉(旧高23)平成17年3月7日
山口 欣次(特別賞)平成17年3月23日	土岐 晃彦(政経18)平成16年5月16日	池田 泰雄(旧高11)平成16年11月15日	金原 英夫(高)8)平成17年3月7日
萩澤 清彦(特別賞)平成17年4月30日	石川 八朗(旧高24)平成16年5月21日	深井寿美子(小)24)平成16年11月18日	本間とし子(女)11)平成17年3月11日
由良 君美(旧高22)平成2年8月9日	飯塚巳直雄(政経12)平成16年5月25日	依田 諭(高)45)平成16年11月24日	浅田 榮一(旧高18)平成17年3月16日
山田 邦行(高)6)平成8年2月16日	奥田 直之(政経8)平成16年5月26日	野地 光代(文)2)平成16年11月26日	加藤 泰佑(政経3)平成17年3月22日
中野 次雄(旧高4)平成11年10月13日	高山 直清(旧高9)平成16年5月31日	中村 学(小)39)平成16年12月3日	井上 旭(政経6)平成17年3月27日
小川 哲也(経)28)平成11年12月27日	田村 和男(小)45)平成16年6月1日	井上 陽一(旧高4)平成16年12月4日	福田 雅俊(旧高19)平成17年3月29日
正田 明彦(小)40)平成12年9月24日	小林 義秀(工)5)平成16年6月16日	谷岡喜久蔵(旧高11)平成16年12月7日	丹羽 孝(旧高20)平成17年4月11日
大橋恵津子(高)30)平成12年10月7日	大貫 桂輔(小)67)平成16年6月18日	山岸 春男(旧高18)平成16年12月10日	中島 信子(小)13)
三浦 純一(工)4)平成12年11月30日	志賀 信雄(旧高15)平成16年6月22日	小宮山康子(高)41)平成16年12月14日	保木 宏勝(小)39)
沢田 明信(旧高3)平成13年6月16日	高谷 祐(旧高19)平成16年6月26日	鐘江 道子(小)19)平成16年12月15日	増井 良吉(実務8)
北島 巖(工)2)平成13年9月26日	小野篤次朗(旧高5)平成16年7月13日	栗山 佳己(工)12)平成16年12月26日	寺田 慎一(中)4)
阿波須磨子(女)6)平成13年10月6日	渡辺 登世(女)11)平成16年8月19日	原島 正雄(政経14)平成16年12月31日	甲斐 静子(女)8)
依田 幸一(政経12)平成13年11月6日	今井 保夫(工)7)平成16年8月19日	山本全之助(旧高15)平成17年1月3日	金子 志子(高)6)
伊藤千鶴子(女)19)平成14年2月25日	神戸 宏(政経3)平成16年8月23日	鈴木 善祐(旧高12)平成17年1月4日	神谷 康徳(高)6)
市川 達也(工)25)平成14年11月4日	泉 登生美(文)19)平成16年8月31日	中村 三朗(旧高19)平成17年1月14日	丸山 孝(高)6)
稲場 訓(政経14)平成15年3月24日	高橋奈由太(工)33)平成16年9月6日	吉野 芳子(女)3)平成17年1月17日	高木 和馬(政経6)
浜野 要(政経16)平成15年6月1日	滝浦 伸(工)11)平成16年9月22日	真藤 一利(高)8)平成17年1月21日	池田 暢男(政経8)
飯沼 信介(政経15)平成15年10月7日	坂上 良衛(政経5)平成16年9月26日	藏本 祥夫(経)6)平成17年1月25日	橘川 達雄(政経8)
渡辺 英子(女)19)平成16年3月15日	小熊 智美(法)30)平成16年10月3日	相馬 駿一(旧高10)平成17年1月27日	島本 祥三(政経8)
吉野 英夫(政経2)平成16年3月26日	井上 瑞緒(政経9)平成16年10月4日	丹治 道生(旧高4)平成17年1月30日	馬場 均(経)4)
横田 都(女)19)平成16年4月9日	竹谷 明(フ)5)平成16年10月7日	小島鴻次郎(旧高16)平成17年2月5日	吉松敬太郎(工)10)
		坂 要ノ助(経)4)平成17年2月5日	松下 敬松(文)4)
		吾郷 忠行(政経9)平成17年2月13日	上田 昌子(文)7)
		杉山 直樹(旧高20)平成17年2月16日	清水貴美子(文)7)
		田島 道子(女)19)平成17年2月21日	土屋 ゆい(法)27)

退職挨拶

経済学部 原 孝一郎

工学部 飯塚 肇

成蹊の校門を入り静かにひとり櫛並木を歩むだけで、ゆったりと時が流れてゆくを感じる—この静かさを心に納めて、心暖められる幸せ。この創られた時空のなかに歩みを緩め櫛の梢を見上げては、創立者をはじめ諸先輩方の学園に対する愛情とご配慮に感謝しつつ、20年の年月が過ぎました。

急激に変化したのは、学生とそれに対応する教師・職員だったのでしょうか。これは激変する社会の動きと直結していると思います。変化のなかにあつて信すべきものを保ち、愛をもつて教え希望が持てるよう学生を励まし、自己・人間を見つめ続ける、これは人文学を学ぶ者の求める幸せです。

妻、友人、同好の士の支えに助けられ、この今を手にかけています。定年に際しこの人生を顧みますと、私はよい道を選んだなと幸せに思います。この教師・研究者という仕事は私には楽しいものでした。成蹊会の一年生になります。よろしく願います。

工学部 篠田 心治

文学部 遠藤 宏

成蹊学園には、1986年に工学部経営工学科に就職いたしました。本年3月に大学を移ることになり退職いたすことになりました。在任中は、経営工学科の丹羽教授のIE研究室（現在「経営システム工学研究室」）に助手として働かせていただきました。今まで数多くの思い出がありますが、何よりの思い出は成蹊大学の多くの学生に出会えたこととあります。助手という役割から、学生とコミュニケーションを直接とることが多く、特に卒業研究の過程では密につきあうことになりました。学生と話し研究を進める過程は、厳しいですが大変楽しくこちらも勉強になりました。成蹊大学の学生は、とても素直で明るく性格のよい学生がそろつていてと感じております。また、私のいたらない点をまわりの先生が暖かい目で見守り支えていただいたことにも心より感謝をいたします。最後になりますが、長い間お世話になりました。どうぞよろしくお願いいたします。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

私が文学部（日本文学科）に着任したのは昭和五十年四月です。特別任用教授の三年間を含めると三十年間お世話になったこととなります。この間、学園・大学・学部・学科はそれぞれ変化の連続でした。三十年という年月に鑑みればそれは至極当然の事です。

在任中の文学部における変化の中で最大の変化は、学部の再編成ということに尽きるでしょう。平成十一年四月創設以来の三学科から現在の四学科へと文学部は生まれ変わりました。創設時にはユニークで斬新であった文化学科という名称の存続が叶わなかったことは大きな痛みとして残っていますが、各学科の理念・カリキュラム、教員の教育・研究意欲等に涉つて文学部全体の再活性化が果されたと考えます。そして、この文学部再編成は単なる変化ではなく学園全体の発展に寄与した「発展」だと信じています。申請から認可に至るまでの責任を負う立場にあった私にとっては、文学部再編成は在任三十年間の最重要事として記憶に残っています。

今後も学園は変化し続けるでしょうが、それらが「発展」に直結するものであることを切に願つて止みません。

思うままに

中学・高校 塩入 勇二

たいへんお世話になりました。中高生と共に過ごした成蹊での三十数年間でした。今は喧噪な生徒の声もない静かな生活になりました。学校を離れての生活を始めると、中高生の躍動・頑張りが改めて感じられます。このころの部活動での活躍、大学進学における頑張り、成蹊高生は新しい成果・歴史を着実に積み重ねているように思われます。成蹊高生はお互いの良き、生き方を認め合いつつ、協力するところは協力し、そして自分の道を見つけて進んでいくという成蹊精神の自主自立に満ちた生き方をしているように思います。

成蹊中高も少子化等の問題を抱え、状況は厳しさを増していくことと思われます。これからどのようなスタイルの学校になるにせよ、自ら考えて行動する人材・最先端で活躍する人材を育てる学校であってほしいと思っております。同窓会の皆様にはこれまでと変わらず中高の応援をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、生徒の一層の活躍と成蹊中高の発展を願っております。

高校水泳部顧問の思い出

中学・高校 山戸 竹男

旧南プールの木造の部室の外側の壁に、水上にジャンプしてボールを鼻先で捕らえたイルカの絵が描かれていた。皆がこのイルカのように、若しくはさわやかで、水が大好きだった。春のプール開き。中一からOB、OBで現役部員の保護者までが年齢順に並んで挨拶する。中一の新入部員も、何年か後には、大学生、OBの席に座れるのだ。夏のプール祭りで、プールが、部員、OBとその家族たちの団欒の場になるのを見て、水泳部の共同体的な繋がりに驚いた。私は公立で育ったので、こういうあり方のクラブ活動は知らなかったのだ。

波左間で、水泳部全体の一泊の親睦合宿。夜、大学生が中学生に「こわい話を聞かせたり、肝試しの鬼になって遊んでやっているのを見て、水泳部の人間関係が豊かなことに、うらやましさを感じた。

夏の日の午後の南プール。夕立が降っても練習は続き、水面に、雨の水しぶきと泳者の水しぶきが勢よく混ざる。夕立が上がつて、プールの向こうの空に虹が出た。皆で練習を止めて、虹を眺めてホッと一息。女子部員が、水泳部にきつといいことがあるよ、などと話していた時のことを、懐かしく思い出す。

心に残る一片の出来事

中学・高校 吉田 寛治

思い出は脈絡もなく突然噴出するものですが、人格教育を標榜する成蹊らしい象徴的な出来事として強く印象に残り、度々思い出し、心してきたことを記したいと思います。

私が生活課（現在生徒部）主任をしていたときのことです。生徒の喫煙が発覚し、喫煙者と同席していた生徒にも、規則に則した。学校が折に触れて啓蒙し、指導している内容を十分承知していた生徒は校長の申し渡しを素直に受け入れてくれました。しかし担任指導の段になると、同席していた保護者（父親）は納得せず、担任の前にして子供に「君が異議申し立てできないのであれば私が異議を申し立てようか」と話したそうです。ところがその生徒は生活課の先生方による事実確認の仕方や指導を通して先生方の愛情が伝わってきたのでその必要はないと保護者を逆に説得し、納得させたというのを担任から報告を受けたことがあります。

生徒は時に過ちを犯すもの。しかしそこから立ち直るには生徒と教員の信頼関係以上の妙薬はありません。成蹊はそのことを理解できる生徒と大事にする教員の集団であつた証として私は心に留めました。これからもそういう学園であり続けることを願っています。

小学校 高柴 光男

縁あつて在職40年。おかげさまをもちまして最後まで任務を果たすことができました。同僚の教職員、思い出に残る子どもたち、そして夏の学校や冬の学校でお世話になった卒業生、さらにはPTA諸活動における多くの保護者のご協力と大きなご尽力に支えられて、ここまで成し遂げることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。有り難うございました。

小学校は、2005年4月から少人数教育を標榜して、28人・4学級制をスタート致しました。このシステムの可否は、もちろん現職の方々のご奮闘にかかっておりますが、保護者・学園・卒業生の大きなサポートが必要で、とりわけ、少人数教育実現を目指した準備室の元委員長としては、答申通りの人的構成が実現できなかったことが痛恨の極みです。ぜひ、関係者のご理解を得られまして、少人数教育の方向をさらにご支援いただきたいと深く願うものです。

長い間、お世話になりました有り難うございました。

社団法人成蹊会の個人情報保護方針

成蹊会における個人情報取り扱いに関する原則

平成17年3月31日 社団法人成蹊会 会長 瀧 秀 彦

【社団法人成蹊会の個人情報保護方針】

- 1、個人情報の安全管理を重要な社会的責任であると認識し、個人情報保護法、個人情報に関する関係諸法令及び主務大臣のガイドラインに定められた義務並びに本保護方針を遵守します。
- 2、個人情報管理責任者を置き、本会及び業務委託先を監督し、個人情報の適切な取り扱いに努めます。
- 3、個人情報の取得は、利用目的を明示し、本会の目的達成に必要な範囲に限定し、かつ適切な手段で行ないます。
- 4、利用目的の範囲を越えた個人情報の利用及び提供はいたしません。
- 5、個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏洩等に対する予防措置並びに安全対策を講じます。
- 6、保有個人データの開示・訂正等の依頼に対しては、合理的かつ必要な範囲で速やかに対応いたします。
- 7、個人情報保護に関する取り組みを継続的に見直し、改善及び向上に努めます。

【成蹊会における個人情報取り扱いに関する原則】

＜法令等の遵守＞成蹊会は、個人情報保護法、個人情報に関する関係諸法令及び主務大臣のガイドラインに定められた義務並びに本保護方針を遵守します。

＜体 制＞成蹊会は、会員情報の取り扱い及びシステムに関し、必要な規程を策定するとともに、管理者を置き、会員情報保護のための体制を整えます。

＜会員情報の収集＞会員情報の取得は、利用目的を明示し、本会の目的達成に必要な範囲に限定し、かつ適切な手段で行ないます。

1、成蹊学園からの会員基本情報の取得

会員の基本情報（卒業生情報）の取得は、成蹊学園に利用目的を明示して文書で依頼し、目的達成に必要な次の情報の提供をいただきます。

①成蹊大学卒業生 学籍番号、氏名、住所、電話番号、指導教授（所属ゼミ担当教員）名、就職・進路先、成蹊高等学校出身者についてはその情報

②成蹊高等学校卒業生 クラス、氏名、住所、電話番号、進路先、成蹊小学校出身者についてはその情報

＜会員情報の利用＞成蹊会は、会員情報を利用するにあたっては、下記利用目的の範囲内で利用することとし、その利用目的の範囲を越えた個人情報の利用及び提供はいたしません。

1、各種会合・ご案内通知 ①会員通常総会通知 ②卒業学校・学部等の周年記念行事開催通知 ③ゼミ同窓会・指導教授最終講義の通知 ④各地域・地区同窓会開催通知 ⑤職域同窓会、クラブOB会の開催通知 ⑥その他成蹊会からの行事・会合等の案内通知

2、会費納入・寄付等の案内通知

3、刊行物の送付（成蹊会誌・学園広報等成蹊会・学園刊行物）

4、会員名簿の作成・送付（住所・電話・勤務先は不開示にできます。）

5、上記①での成蹊会各組織における行事遂行のための利用

6、成蹊学園での事業遂行に必要な会員情報の成蹊学園への提供・共同利用

＜正確性の確保＞成蹊会は、会員情報の正確性・最新性を確保するため、適切な措置を講じます。

＜安全管理措置＞成蹊会は、個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏洩等に対する予防措置並びに安全対策を講じます。

＜教育＞成蹊会は、従業者に対する個人情報保護についての教育訓練を行い、その内容を周知徹底させます。

＜委託先の監督＞成蹊会は、会員情報を利用するにあたっては、正当な利用の範囲内で個人情報を第三者に委託することがあります。委託先へは個人情報を厳重に管理することを義務付け、監督いたします。

＜第三者提供の制限＞成蹊会は、本取り扱いに掲載する目的内利用及び法令による場合等を除き、会員情報を会員の同意なく第三者に提供・開示いたしません。

＜個人情報の確認・訂正＞成蹊会は、会員本人が保有個人データの確認・訂正等をご希望される場合には、合理的かつ必要な範囲内において速やかに対応いたします。

＜体制の継続的な見直し＞成蹊会は、会員情報取り扱いに関する規程及び組織体制につき、有効かつ適正な運用の確保のために継続的な見直しと改善を図ります。

平成16年度 寄付金芳名録

※ ご寄付金を寄せられた個人・団体・法人の皆様に厚く御礼申し上げます。※
(敬称略)

寄付金総額 3,204,841円 (平成16年4月1日～17年3月31日)

◇基金別寄付金明細 (個人57名・4団体)

育英奨学基金 520,000円 (個人15名)

20万円 故谷岡喜久蔵(旧高11)
10万円 山本 孝一(経 19)
3万円 石黒 俊彦(高 29) 佐方 節子(法 1) 服部 斐子(女 20)
2万円 蛇川 馨之(政 15) 小澤 利男(旧高22) 兼田 和子(女 22)
1万円 安倍 晋三(法 8) 釜谷 徹(政 18) 小林 慎也(経 18) 後藤 幸太(法 15)
清水 英紀(政 8) 竹内カヨ子(政 14) 松村 英幸(高 16)

学術・教育助成基金 533,000円 (個人14名・1団体)

20万円 故谷岡喜久蔵(旧高11)
10万円 デンシトメーター研究会(島尾 和男・旧高19) 三須 雅子(プ 6)
3万円 鈴木 理恵(高 56)
1万円 飯口 威一(工 18) 植松 眞哉(政 6) 後藤 幸太(法 15)
清水 英紀(政 8) 谷原 裕美(文 31) 竹内カヨ子(政 14) 葉田野 博(プ 6)
松永 正英(政 14) 松村 英幸(高 16) 矢野 岳(旧高24)
1万円以下 今井寅二郎(旧特別)

国際交流基金 373,000円 (個人12名)

20万円 故谷岡喜久蔵(旧高11)
5万円 竹内 克之(政 16)
2万円 鈴木 直志(工 35) 矢野 岳(旧高24)
1.3万円 関島 昌信(プ 12)
1万円 釜谷 徹(政 18) 小林 慎也(経 18) 後藤 幸太(法 15) 清水 英紀(政 8)
平岡 泰樹(経 15) 平尾 皓男(政 10) 松村 英幸(高 16)

スポーツ振興基金 416,590円 (個人9名・1団体)

20万円 故谷岡喜久蔵(旧高11)
6万円 五来 純(経 10)
35,590円 瀧 道彦(政 6)
31,000円 成蹊大学体育会本部
3万円 小田部 裕(経 3)
1万円 後藤 幸太(法 15) 清水 英紀(政 8) 葉田野 博(プ 6) 松村 英幸(高 16)

文化振興基金 260,000円 (個人5名)

20万円 故谷岡喜久蔵(旧高11)
2万円 岡田 博史(文 1)
1万円 後藤 幸太(法 15) 清水 英紀(政 8) 松村 英幸(高 16)

一般寄付 1,102,251円 (個人2名・2団体)

100万円 故谷岡喜久蔵(旧高11)
10万円 昭和49年大学卒業合同同窓会一同
1万円 田中 義皓(政 16)
1万円以下 大学卒業50周年同窓会

成蹊会報告

（自平成16年11月1日
至平成17年4月30日）

一、会議

■理事会

第156回（17・1・25）

(1) 特別委員会委員（補充）選任

(2) 平成17年度成蹊会事業計画・収支予算（案）大綱審議

第157回（17・3・17）

(1) 特別委員会委員（補充）選任

(2) 平成17年度成蹊会事業計画・収支予算（案）の承認

(3) 第45回成蹊会謝恩顕彰実施（案）の承認

(4) 第50回成蹊会通常総会実施日程（案）の承認

■特別委員会等

総務企画委員会（16・12・3／17・1・17／17・2・24／17・4・14）

成蹊桜祭委員会（16・12・1／17・1・27／17・2・23）

推薦委員会（16・11・16／17・3・8／17・4・12）

広報委員会（16・12・15／17・4・18）

財務委員会（17・3・10）

育英奨学委員会（17・4・11）学術・教育助成委員会（17・4・11）

スポーツ振興委員会（17・4・20）

■同窓会委員会

小学校同窓会委員会（16・11・16）

法学部同窓会委員会（17・1・19）

高校（新制）同窓会委員会（17・2・18）

工学部同窓会委員会（17・2・22）

高校（旧制）同窓会委員会（17・3・18）

二、催事

■支部・地域成蹊会

経済学部同窓会委員会（17・3・7／17・4・27）

文学部同窓会委員会（17・3・9／17・4・26）

やよい会（女学校）同窓会委員会（17・4・3）

秋田成蹊会（16・11・6）三重成蹊会（16・11・14）

岐阜成蹊会（16・11・27）愛媛成蹊会忘年会（16・11・27）

長野成蹊会（16・11・27）宮城成蹊会（16・12・15）

渋谷成蹊会（17・2・10）北海道支部「枯林忌の集い」（17・2・16）

兵庫成蹊会（17・4・9）青森成蹊会（17・4・23）

〈訂正〉九州支部総会の開催日（正）（16・10・30）

三、刊行物

第82回枯林忌（17・2・19）関連記事39頁

第28回成蹊桜祭（17・4・5）関連記事18頁～20頁

成蹊会誌第100号（1000号発行記念号）（17・1・1）

成蹊会会員名簿（平成16年度版）（17・1・1）

1. 育英奨学事業 1,788万円 (基金 22,711 万円)

○育英奨学貸与金 1,788 万円 (大学学部生 26 名・大学院生 3 名・高校生 1 名)

育英奨学金制度を設け、昭和 31 年以降、主として成蹊大学生・高校生を対象に、毎年奨学金を貸与しています。平成 16 年度までの貸与総額は 27,387 万円(678 名)、返済総額は 17,767 万円です。〈現在の貸与金額は、大学生は年額 60 万円/名、高校生は年額 48 万円/名〉

2. 学術・教育助成事業 290万円 (基金 5,857 万円)

○学術・教育研究助成金 250 万円 ○教育振興助成金 40 万円

学術・教育研究助成制度を設け、昭和 49 年以降、成蹊学園に勤務する小学・中学・高校・大学の教員を対象に毎年教育研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しています。平成 16 年度までの贈呈総額は 7,070 万円(269 件)です。〈研究報告(要旨)は 46 頁以下に掲載〉また、成蹊会学術表彰制度を設け、平成 2 年度より、学術研究上特に顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に「成蹊会学術賞」を贈呈(隔年実施)しています。平成 16 年度までの贈呈総額は 425 万円(17 件)です。

3. 国際交流事業 90万円 (基金 2,949 万円)

○交換留学生助成金 90 万円

国際交流基金を設け、昭和 50 年以降、毎年成蹊高校と米国・豪州の高校との交換留学生の諸費用を助成しています。平成 16 年度までの贈呈総額は 1,755 万円です。

4. スポーツ振興事業 171万円 (基金 2,980 万円)

○スポーツ振興助成金 120 万円 ○スポーツ振興金 51,1 万円

スポーツ振興基金を設け、平成 2 年度以降、成蹊学園の大学体育会・中学・高校・小学校にスポーツ振興助成金(詳細は 50 頁)を、大学の学内スポーツ大会(陸上・レガッタ)及び全国大会の地方予選等で好成績をあげた学生・生徒(団体及び個人)にスポーツ振興金を贈呈しています。平成 16 年度までの贈呈総額は 1,881 万円です。

5. 文化振興事業 458万円 (基金 4,513 万円)

○文化振興助成金 50 万円 ○文化振興費 408 万円

文化振興基金を設け、平成 12 年度以降、「成蹊桜祭」に文化振興費を後援し、「櫻祭」(大学)「蹊祭」(中高)及び大学文化会・新聞会に文化振興助成金を贈呈しています。平成 16 年度までの贈呈総額は 2,263 万円です。

	育英奨学事業	学術・教育助成事業	国際交流事業	スポーツ振興事業	文化振興事業
11年度以前	18,423	5,905	1,305	1,099	—
12 年度	1,740	340	90	140	457
13 年度	1,788	340	90	156	475
14 年度	1,860	280	90	156	430
15 年度	1,788	340	90	159	443
16 年度	1,788	290	90	171	458
合 計	27,387	7,495	1,755	1,881	2,263

単位…万円

平成17年7月1日 発行所 社団法人 成蹊会 発行人 瀧 秀彦
 企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局 印刷・製本 株式会社 光 邦
 〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766
 メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp ホームページ http://alumnet.ne.jp/

★成蹊会事務局からのお知らせ★

●年会費は毎年1年分のご納入を継続してお願いします

成蹊会の年会費は、原則「年会費3,000円（1年分）毎年納入方式」での受付けに17年度から完全移行しました。従って17年度分の年会費は全員について同封の振込用紙（本誌送付の宛名シートの下段）によりご納入をお願いします。

●成蹊会年会費はコンビニエンスストアでご納入できます

ご要望に応え、成蹊会年会費の振込用紙によるご納入場所として、郵便局の他にコンビニエンスストアも加えました。お手近なお店でお振込みください。

●勤務先・住所等が変わった方へ

正確な勤務先・住所等の把握は同窓会活動の原点です。皆様へ各種ご案内・ご通知等を確実にお届けできるよう、異動や転居等をされた場合、必ず成蹊会事務局へ変更連絡をしてください。成蹊会総会の出欠回答はがきの名簿内容変更届けを利用されると、より簡単です。成蹊会ホームページからも勤務先・住所等の変更ができます。

●ニユートーキョー特別割引カードのニューカードをお送りします

全国のニユートーキョー各店で現金での支払の場合に割引が適用される「成蹊会会員特別優待割引カード」を成蹊会年会費ご納入会員の特典としてお送りしています。現在のカードは17年7月末日に有効期限が到来します。17年度分年会費ご納入に先立って期間更新後のニューカードを本誌に同封してお送りしました。成蹊会年会費をご納入の上ご利用ください。

●「理化館メモリアル盾」を特別桜募金の記念に贈呈

学園理化館（大学1号館）が大学情報図書館建設に伴い解体されるに当たり、学園より理化館建物外装に実際に使用されていた「タイル板」を成蹊会にご寄贈いただきましたので、成蹊会ではこの「タイル板」を埋め込んだアクリル板のメモリアル盾を115個（限定）作成しました。

成蹊会では4月3日開催の成蹊桜祭において特別桜募金を実施し、母校の桜の維持のため3,000円以上のご寄附協力者に、記念の品としてメモリアル盾を贈呈したところ、理化館を懐かしむ記念品として好評でした。メモリアル盾を記念品とする特別桜募金は現在も引き続き成蹊会及び成蹊倶楽部で受付けております。個数に限りがありますのでお早めにお申し込みください。

●卒業生の大学への各種証明書の申請について

平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が全面施行されたことに伴い、個人情報保護の観点から成蹊大学においても各種証明書の発行に際し、本人確認の手続きが一部変更されました。

本人の来校以外による証明書の発行については、従来に比し、かなり時間がかかる場合がありますので、日程に余裕を持って申請してください。

詳しくは、成蹊大学ホームページの「各種証明書の申請方法について（卒業生）」をご覧ください。（成蹊大学ホームページは成蹊会ホームページからもアクセスできます）